FISCO

週刊相場観測誌
Ｍａｒｋｅｔ 展　望

Weekly Market Research Report
2026年11月2日号

ひろぎん証券

今週のPOINT

国内株式市場

米中間選挙後は中東情勢悪化リスクも残り、今週は様子見姿勢強めたい

今週の分析銘柄　－ FISCO Selection ８ －

FRONTEO【 グロース 2158】ほか

テーマ別分析

宇宙安全保障への関心高まる、関連技術の活用拡大へ

話題のレポート

TOPIX除外銘柄の中長期的な影響を検証

スクリーニング分析

決算期が異なる逆行高のバリュー株

先週末にかけて米国市場ではAI関連株が大幅続落

株式会社フィスコ

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

1 今週の市場見通し	国内株式市場	マーケット概観	3
		新興市場	4
	米国株式市場		5
	為替市場	米ドル/円予想レンジ	6
	債券市場	債券先物・長期国債利回り予想レンジ	6
2 マーケットを読む	今週のポイント		7
	日経平均株価		8
3 今週の分析銘柄	FISCO Selection	FRONTEO〈2158〉グロース	9
		カネカ〈4118〉プライム	10
		jig.jp〈5244〉グロース	11
		アルバック〈6728〉プライム	12
		シチズン時計〈7762〉プライム	13
		みずほFG（8411）プライム	14
		JR九州〈9142〉プライム	15
		日本空港ビルデング〈9706〉プライム	16
	読者の気になる銘柄	アドバンテスト〈6857〉プライム	17
		富士通〈6702〉プライム	17
	テクニカル妙味銘柄	イズミ〈8273〉プライム	18
		日本航空〈9201〉プライム	18
4 カテゴリー考察	テーマ別分析		19
	スクリーニング分析		20
	先週の話題レポート		21
	信用需給動向		22
5 連載コラム			23

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

米中間選挙後は中東情勢悪化リスクも残り、今週は様子見姿勢強めたい

■週央にかけて AI・半導体関連中心に切り返す動きへ

先週の日経平均は前週末比 596.95 円高（＋1.0％）の 63290.11 円で取引を終了した。売り先行後、週央にかけて切り返す動きとなったが、週末には大きく伸び悩む動きとなった。前週末の海外市場で原油相場が上昇し、週初はリスク回避の動きが先行した。ただ、米アンソロピックの新規株式公開（IPO）に向けた目論見書の開示をきっかけに、その後は人工知能（AI）関連株への見直しの動きが優勢となっていった。韓国 SK ハイニックスの好決算発表、オラクルとオープン AI の提携強化発表、ブロードコムの資金調達なども、それぞれ AI 関連株を押し上げる材料へとつながった。

ただ、週末には、AI・半導体関連株を中心に急反落する展開となった。7-9 月期決算でフリーキャッシュフローの赤字幅が拡大したアルファベットが大幅安となり、あらためて AI 過剰投資問題に対する懸念が強まることとなった。ハイパースケーラーでは、市場予想未達の決算を発表したアマゾンもその後の時間外取引で大幅に下落。さらに、半導体のインテルもパソコン向け半導体の低迷で業績が市場予想を下回り時間外取引で急落。こうした流れが国内関連銘柄に幅広く波及することとなり、一時は 1948 円安まで下落した。

■米中間選挙前後は様子見姿勢が無難とみる

先週末の米国株式市場は大幅下落。ダウ平均は前日比 572.25 ドル安の 51770.31 ドル、ナスダックは同 747.73 ポイント安の 25437.00 で取引を終了した。225 ナイト・セッションは日中終値比 1070 円安の 62420 円。決算が市場予想に未達となったインテルやアマゾンの株価下落が重しとなったほか、アンソロピックが IPO 直後に「投資不適格」の信用格付けを受ける見通しとブラックストーンが投資家に警告したと伝わり、AI 過剰投資に対する警戒が一段と強まる形となった。

今週の最大の焦点は米中間選挙となろう。共和党が上院・下院の過半数を維持すれば、短期的には買い材料とされるが、徐々に長期金利の再上昇が警戒されてくることになりそうだ。一方、民主党が上院・下院とも過半数を上回る状況となれば、AI 開発抑制議論が再燃することが大きなリスク要因とされてくるだろう。いずれにせよ、中間選挙直後に最も警戒すべきはイラン情勢の変化といえる。両国が妥協に歩み寄って戦争終結に向かっていくシナリオもあろうが、可能性としては米国がイラン再攻撃に踏み切る公算が大きいだろう。短期的な原油相場上昇、長期金利上昇、株価下落の流れに備えておく必要がありそうだ。中間選挙直後は様子見が無難とみる。なお、先週末の米国市場は AI 関連株中心に大幅下落となり、週前半は日経平均の一段安が想定される状況で、現在 62000 円近辺にある 200 日線の下値支持力が焦点となってこよう。

注目された海外企業の決算発表だが、AI・半導体関連では、サムスン電子、インテル、アルファベット、アマゾンなどは市場の期待値に達せず売り優勢となり、サンディスクにも出尽くし感が優勢となった。今後の関連銘柄の決算にも注意が必要だろう。今週は AMD、アーム、クアルコムなどが決算発表を予定している。先週プラス材料視されたアンソロピックの上場申請に関しても、今後は需給悪化への警戒感が優勢となるだろう。

■国内における非 AI 銘柄の決算発表に注目も

ここまでの国内企業の 7-9 月期決算だが、これまでとの比較でポジティブサプライズの比率は低下しているもよう。これまで中心はハイテク株であったため、事前期待値が高まり過ぎていた証とも捉えられる。一方、今後主力銘柄では非 AI 銘柄の発表が多くなる。事前期待値が高まっていない分、妙味になる可能性があり、資金シフトの流れを強めさせる公算もあろう。大手商社の決算発表が前半に集中するほか、5 日にトヨタ自動車〈7203〉、任天堂〈7974〉、日本製鉄〈5401〉、花王〈4452〉、6 日に三菱重工業〈7011〉、三井不動産〈8801〉などの発表が予定されている。

先週は米連邦公開市場委員会（FOMC）、日銀金融政策決定会合、欧州中央銀行（ECB）理事会が揃って開催されたが、政策金利は想定通りにそれぞれ据え置きで、市場インパクトは限られた。ただ、日本銀行では上場投資信託（ETF）の売却ペース加速化を決定、今後、相場の下落局面では警戒意識が高まる可能性があるほか、将来的には売却ペースの再加速化なども懸念されよう。米国では今週雇用統計が発表されるが、中間選挙直後だけあってインパクトは限られよう。ECB 理事会の通過によって、フランス国債利回りの再上昇リスクなどには注意したい。

■3 日には米国で中間選挙が行われる

今週、国内では、4 日に 10 月マネタリーベース、5 日に日銀金融政策決定会合議事要旨（9 月 17-18 日開催分）、6 日に 9 月毎月勤労統計調査が発表される。なお、3 日は文化の日の祝日のため休場となる。

海外では、2 日に中・10 月製造業 PMI（RatingDog）、米・10 月 ISM 製造業景況指数、3 日に米・9 月 JOLTS 求人件数、9 月製造業受注、10 月自動車販売台数、4 日に中・10 月サービス業 PMI（RatingDog）、欧・10 月ユーロ圏消費者物価指数、米・9 月貿易収支、10 月 ADP 雇用統計、10 月 ISM 非製造業景況指数、5 日に米・新規失業保険申請件数、6 日に欧・9 月ユーロ圏小売売上高、米・9 月消費者信用残高、10 月雇用統計、11 月ミシガン大学消費者マインド指数などが発表される。なお、3 日には米国で中間選挙が行われる。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

金利上昇一服で成長株買い直し、生成 AI 関連以外の銘柄を選好

■金利上昇一服で成長株に見直し買い、決算・IPOにも注目

今週の新興市場は堅調が予想される。米国の大手 IT 企業による巨額投資の回収可能性への懐疑的な見方が、プライム市場の半導体など生成 AI 関連銘柄を圧迫し、生成 AI 関連銘柄以外に物色の矛先を探す雰囲気が強まっている。日米で長期金利上昇が一服していることもあり、金利上昇が逆風となってきた成長株を買い直す展開が期待できそうだ。GO<581A>、ティアフォー<593A>など自動運転関連株や、アストロスケールホールディングス<186A>、Terra Drone<278A>、Synspective<290A>といった売買代金上位ランキング常連の防衛関連銘柄に短期筋の資金が向かおう。

一方、26 年 7-9 月期決算発表の集中期が 11 月 13 日まで続く。業績の上振れや株主還元強化が判明した銘柄は個別に買われることになりそうだ。

先週末に情報開示のあった銘柄では、腫瘍溶解ウイルスの新たな適応を目指した臨床試験の投与開始を発表したオンコリスバイオファーマ<4588>、蓄電池を活用した新たな系統接続・設備形成手法の実現に向け、関西電力送配電と基本合意したパワーエックス<485A>、27 年 3 月期通期業績予想の上方修正と増配を発表したベガコーポレーション<3542>などが注目される。

今週の IPO は 4 件。11 月 2 日に MabGenesis<653A>、4 日に Allganize Holdings<656A>、6 日に estie<658A>がそれぞれグロース市場に、5 日に LTV-X<655A>が名証ネクスト市場に上場予定となっている。10 月 30 日上場のトグルホールディングス<652A>が公開価格比約 7%安と低調なスタートだったことから、今週の IPO 銘柄の初値買いもやや慎重な雰囲気となりそうだ。

先週の東証による上場承認は 2 件。ジャパンホームシールド<667A>のスタンダード上場(11 月 30 日)と M&A ロイヤルアドバイザリー<669A>のグロース上場(12 月 3 日)が決まった。

東証グロース市場 250 指数



GO<581A>



オンコリスバイオファーマ<4588>



本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

中間選挙後も当面は中東情勢の変化などリスク要因残る/米国株式相場　今週の見通し

■先週の動き

先週の米国株は下落。騰落率は、NY ダウが−0.85%、ナスダックが−2.00%、S&P500 が−0.57%。週前半はハイテク株中心に買いが先行、アンソロピックが新規株式公開（IPO）に向けた目論見書を公開し、人工知能（AI）関連株の刺激材料につながった。スペース X の資金調達完了などもプラス材料視された。その後も週前半は、ブロードコムが資金供給の枠組みを作ったと発表したこと、オラクルとオープン AI との提携強化、韓国 SK ハイニックスの好決算発表などが、ハイテク株の支援材料となった。

ただ、週後半にかけては一転、AI 関連株を中心に伸び悩む展開となった。7-9 月期決算でフリーキャッシュフローの赤字幅が拡大したアルファベットが大幅安となり、あらためて AI 過剰投資問題に対する懸念が強まることとなった。決算が市場予想を下回ったインテルも週末に急落し、好決算を発表したサンディスクなどにも売りが波及。さらに、アンソロピックが IPO 直後に「投資不適格」の信用格付けを受ける見通しとブラックストーンが投資家に警告したと伝わったことも警戒材料とされた。

個別では、マイクロソフトが週前半に買い優勢。コスト削減の一環として 6 万人に希望退職を提示する計画を発表、決算でも利益が市場予想を上回ったほか、設備投資が予想を下回り好感された。オラクルはオープン AI との提携強化のほか、長期の FCF 含めた目標が市場予想を上回って週央にかけ大幅高。イーライリリーは、肥満治療薬「ゼップバンド」「マンジャロ」の需要が引き続き強く、通期見通しを引き上げて上昇。シェブロンやエクソンモービルも決算内容が好感されて買い優勢となった。

一方、スペース X は、エヌビディア製 GPU 購入資金調達のため、ファイナンスリース契約を締結したとの報道で警戒感が強まった。メタは、AI 関連用に最大 950 億ドル規模を株式発行で資金調達する計画が報じられ、過剰投資への懸念が再燃、さらに決算では利益が市場予想を下回り、失望売りも強まった。ボーイングは、商業航空機ビジネス部門の損失拡大や通年の納入機目標引下げが嫌気された。キャタピラーは増収増益決算ながら、AI データセンター建設ブームの鈍化が示されて下落。アマゾンは、第 3 四半期決算で利益が市場予想を下回ったほか、第 4 四半期見通しも想定を下回って売り優勢。インテルは、メモリー価格の高騰に警鐘を鳴らし、PC 向けプロセッサーの需要鈍化が響いて第 4 四半期の売上高見通しが予想を下回ったため急落した。

■今週の見通し

今週の最大の注目イベントは中間選挙であろう。共和党の苦戦が予想されており、現状では、下院では民主党が過半数を上回り、上院で民主党が過半数を奪取するか否かが焦点と見られている。仮に、共和党が上院・下院の過半数を維持する事態となれば、短期的に市場ではポジティブサプライズとなろうが、長期金利の再上昇の可能性が中期的に警戒されてくることになろう。一方、民主党が上院・下院とも過半数を上回る状況となれば、AI 関連株の動向に不安定さが強まっている中で、AI 開発抑制議論が再燃することが大きなリスク要因とされてくる。ただ、中間選挙直後に最も警戒すべきは、イラン情勢であろう。両国が妥協に歩み寄って戦争終結に向かっていくシナリオも残るが、米国がイラン再攻撃に踏み切る可能性がより高いと考えられる。短期的な原油相場上昇、長期金利上昇、株価下落の流れに備える必要があり、目先はポジション整理・縮小の動きが強まるとみる。

先週の決算ではあらためて、AI・半導体関連に対する事前期待値の高さが認識させられた。SK ハイニックスこそ株価上昇につながったものの、サムスン電子、インテル、アルファベット、アマゾンなどは市場の期待値に届かず売り優勢となり、サンディスクなどは好決算にもかかわらず出尽くし感が優勢となった。今週も関連銘柄の決算には注意が必要となってこよう。ちなみに、今週は AMD、アーム、クアルコムなどの半導体関連やアップルなどが決算発表を予定している。なお、先週はプラス材料につながったアンソロピックの上場申請だが、今後は AI 関連セクター内でのリバランスに向けた需給悪化への警戒感が優勢となる公算が大きい。

経済指標は、2 日に 10 月 ISM 製造業景況指数、3 日に 9 月 JOLTS 求人件数、9 月製造業受注、10 月自動車販売台数、4 日に 9 月貿易収支、10 月 ADP 雇用統計、10 月 ISM 非製造業景況指数、5 日に新規失業保険申請件数、6 日に 9 月消費者信用残高、10 月雇用統計、11 月ミシガン大学消費者マインド指数などが発表される。なお、3 日に中間選挙が行われる。

主な決算発表は、2 日にアップル、マリオット・インターナショナル、パランティア、エスティローダー、オン・セミ、3 日に AMD、アムジェン、アリスタネットワークス、ファイザー、デュポン、グッドイヤー、4 日にマクドナルド、クアルコム、ウーバー・テックノロジーズ、6 日にモデルナなどが予定されている。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

為替市場

ドル・円は底堅いか。11 月 3 日の米中間選挙では民主党の優勢が伝えられており、米国の景気や財政政策をにらみドルの売り買いが交錯し、不安定な値動きとなる可能性があろう。直近の世論調査では、共和党は支持率低迷が鮮明となっており、現時点では敗色濃厚。上下両院で少数派に転落なら、米景気減速懸念から米金利安・ドル安が見込まれる。ただ、市場の混迷への懸念で、安全資産としてのドル買いも入りやすい。共和党が下院でのみ敗北するシナリオでも、法案成立や大規模な財政拡張が難しくなる可能性があり、米長期金利の低下でドル安方向への圧力が想定される。半面、ドルは売り一巡後に、財政再建への思惑から信認回復を意識した買戻しが入る可能性もあろう。また、トランプ米大統領は中間選挙後にイスラエルとともにイランへの攻撃再開を示唆しており、有事のドル買いと原油相場の高騰によるドルの連れ高の展開も考えられる。さらに米 10 月雇用統計では非農業部門雇用者数の増加が予想されており、雇用情勢の改善が確認されれば、12 月の追加利上げをにらんだドル買いも想定される。欧州中央銀行（ECB）も、利上げを見送ったものの次回 12 月に引き締めの可能性が高い。ただ、フランスの財政・政治情勢への懸念は根強く、ユーロ売り・ドル買いは続くとみられる。また、日本銀行も現行の政策金利を据え置き、ドル・円は日米金利差維持のため下げづらい値動きとなりそうだ。

債券市場

■先週の動き

先週（10 月 26 日－30 日）の債券市場で長期債利回りは、週半ばにかけて上昇した後、週末に大きく低下した。28 日は日米の株安基調が一服して投資家心理が改善し、29 日は日銀金融政策決定会合を控えた売りも出て、利回りは上昇した。一方、30 日は、29 日に発表された米 PCE 価格指数（コア前年比+3.1%、予想+3.1%）が概ね予想通り、米 7-9 月期 GDP（前期比年率+3.4%、予想+3.0%）が予想を上回る中、AI 関連株が急落して米国債に逃避買いが入り、米 10 年債利回りが 5%を割り込み 4.9%台後半まで低下した。この流れを引き継いだ国内債にも、日経平均が 1369 円安と大幅に下落したことによるリスク回避の買いが入り、利回りは大幅に低下した。

10 年債利回りは週半ばまで上昇後、週末に急低下。2.815%近辺で 26 日の取引を開始し、朝方は週末の米国のイラン攻撃リスクを背景とした原油高で 2.823%近辺まで上昇したが、午後は原油先物の下落や米金利低下から買い戻され、2.788%近辺で引けた。27 日は、米ハイテク株高を受けた売りで小幅に上昇し、2.790%近辺で引けた。28 日は、日本時間の米長期金利上昇も重なって 2.827%近辺まで上昇した。29 日は、米連邦公開市場委員会（FOMC）（政策金利を 4.00%で据え置き、クック理事らが利上げを主張して 10 対 2）後の米金利上昇や日銀会合を控えた売りで 2.847%近辺まで上昇し、2.842%近辺で引けた。30 日は 2.761%近辺で寄り付き、日銀会合の結果（政策金利を 1.25%で据え置き、賛成 8 反対 1）や東京都区部 10 月 CPI（前年比+2.6%、予想+2.6%）が予想通りで反応は限定的となる中、2.760%近辺でこの週の取引を終えた。

債券先物 12 月限は週末にかけて上昇。126 円 51 銭で 26 日の取引を開始し、126 円 73 銭まで上昇する場面もあったが、126 円 43 銭で引けた。27 日は 126 円 40 銭、28 日は 126 円 43 銭と小動きだったが、29 日は 126 円 11 銭まで押し戻された後に 126 円 58 銭で引けた。30 日は 126 円 59 銭で寄り付いた後、米金利低下とリスク回避の買いを受けて 126 円 94 銭まで上昇し、126 円 83 銭でこの週の取引を終えた。

米ドル・円 予想レンジ	154.00	円	～	160.00 円

【米・中間選挙】（11 月 3 日予定）

米中間選挙は第 2 次トランプ政権への審判となろう。下院の全 435 議席と、通常の改選 33 議席に補欠選挙 2 議席を加えた上院 35 議席が争われる。共和党が上下両院で少数派に転落する最悪シナリオでは、政権の政策運営が難しくなるとの見方から、ドル売りが見込まれる。ただ、財政再建を見込んだドル買いにつながる可能性もあり乱高下も。

【米・10 月雇用統計】（11 月 6 日発表予定）

米 10 月雇用統計では、失業率は 4.2%（9 月 4.2%）、非農業部門雇用者数は前月比+5.5 万人（同+2.9 万人）、平均時給は前年比+2.9%（同+3.0%）と予想される。非農業部門雇用者数の増加幅が市場予想を上回れば、米労働市場の底堅さが意識され、引き締め的な金融政策をにらんだドル買いが入りやすい。一方、平均時給の伸びが鈍化すれば、インフレ圧力の緩和が意識され、ドルの上値を抑える要因となる可能性もある。

債券先物予想レンジ	126.10	円	～	127.40 円
長期国債利回り予想レンジ	2.680	%	～	2.880 %

■今週の見通し

今週（11 月 2 日－6 日）の債券市場で長期金利はもみ合いとなる見込み。3 日は文化の日で東京市場が休場となり（米国は中間選挙の投開票日）、国内の取引は 2 日、4 日、5 日、6 日の 4 営業日となる。先週末に約 3 カ月ぶりの低水準圏まで低下しており、戻り待ちの売りと押し目買いが交錯する展開が想定される。AI 関連株の変動が大きく、株安時に債券が買われる動きが続くかも焦点となる。

週明け 2 日は、30 日に行われた植田日銀総裁の記者会見の内容が反映される。植田総裁は、次の利上げの時期について、次回会合を含め毎回の会合で点検していくとし、基調的な物価が 2%を超えて上振れるリスクは依然として無視できず、2%程度で安定させる観点がこれまでより重要になると述べた一方、2%の達成宣言ではないとも強調した。12 月 17-18 日開催予定の次回会合での追加利上げ観測を崩す内容ではなく、会見中の市場の反応は限定的だった。30 日の NY 市場では米 10 年債利回りが 4.93%近辺で小動きとなり、複数の米連邦準備制度理事会（FRB）当局者が追加利上げの必要性に言及したが、12 月利上げは織り込み済みで反応は限定的だった。

国内では、5 日に 10 年債入札（2.6 兆円程度）が実施され、先週の金利低下後の需給の手掛かりとなる。同日 8 時 50 分には日銀の 9 月会合議事要旨も公表される。6 日 22 時 30 分発表の米 10 月雇用統計（前回 9 月は+2.9 万人と予想を大幅に下回り、失業率は 4.2%）と、7 日 1 時頃の植田総裁の IMF 講演は、国内債の引け後のため、影響は 9 日以降となる。3 日の米中間選挙を受けた米市場の反応は、4 日以降の取引に反映される。

債券先物 12 月限は主に 126 円台半ばから 127 円台前半で推移か。10 年債入札や米中間選挙後の米金利・株価の動向次第では振れが大きくなる可能性がある。AI 関連株安が続けば買いが入りやすく、逆に株価が反発すれば売りに押される展開も想定される。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

米中間選挙もリスク要因、ディフェンシブなどへの資金シフト優勢に

先週の日経平均は反発。週初は売りが先行したものの、週央にかけては AI・半導体関連株をけん引役に切り返す動きとなった。米アンソロピックの IPO に向けた目論見書の開示がきっかけ材料となった。ただ、週末は一転して AI・関連株主導で大幅安となる。アルファベットやインテルなど米ハイテク株が決算下振れで急落したことが影響。業種別では、海運や銀行などのバリューセクターが上昇。原油高受けて週初は石油関連業種も買われる。一方、機械や電気機器、非鉄金属などが下落率の上位。

個別では、主力企業の決算発表が主な物色の手掛かりとなった。ファナックは通期業績の上方修正で買い安心感。アドバンテストも市場想定上回る水準までの上方修正が好感される。半面、富士通は 7-9 月期決算がコンセンサスを大きく下振れて週末に急落。ほか、KOA、宝 HD、信越ポリマー、MARUWA、シマノ、信越化学、メタウォーター、コナミグループ、タカラトミー、OLC、ANA などには決算評価の動き。川崎汽船、積水化成品は上方修正が好感される。メディパル、日清製粉は自社株買い実施が評価材料に。一方、キヤノン MJ、カプコン、キヤノン、山パン、日東電工、日立、NEC、小糸製、ソシオネクスト、フタバ産業、栗田工業、マクセルなどは決算発表後に軟化。野村マイクロは下方修正がネガティブサプライズに。不正アクセスに伴う損失拡大懸念で GMO グループが一斉安となる場面も。ギフティ、Joshin なども不正アクセス被害で下落。第一三共はアストラゼネカのイベント内容が嫌気される。

先週末の米国市場で SOX 指数は 7%超の大幅安となっており、東京市場で織り込んでいた以上の下げ幅となる形に。週初にかけて AI・半導体関連株の下値模索の動きは継続することになろう。また、今週最大の関心事となるのは米国の中間選挙だろう。民主党が上院・下院とも過半数を上回る状況となれば、AI 関連株にとっては、AI 開発抑制議論の高まりがリスク要因になることが意識され、さらなる買い手控え材料とされそうだ。中間選挙後にはイランへの再攻撃の開始なども想定されるため、選挙通過が短期的なあく抜け材料につながりにくいとも考えられる。

基本的にはディフェンシブ株への資金シフトが想定されるが、リスク資産からキャッシュへのシフトが強まる流れにも警戒する必要があろう。こうした中、個別物色は引き続き 7-9 月期の決算となる。週前半に大手商社の決算発表が集中するほか、4 日には NTT、アステラス、5 日にはトヨタ、任天堂、ダイキン、日本製鉄、花王、6 日には三菱重、三井不などの発表が予定されている。AI・半導体関連株と比較すると事前の期待値は高まっていないとみられ、好決算にはストレートにポジティブな反応も期待される。AI・半導体関連からの資金シフトの矛先となる可能性もあり、注目度は高めておきたい。海外企業決算では、アップル、パランティア、AMD、アーム、クアルコムなどが注目される。ほか、物色テーマでは防衛関連、2 日の防災庁発足に伴う防災関連などが挙げられる。情報サービス大手の決算からは、サイバーセキュリティ関連の短期押し目買いは慎重な対応が必要。

先週動いた銘柄・セクター（東証プライム）

上昇率上位銘柄				下落率上位銘柄				業種別騰落率	
コード	銘柄	終値（円）	騰落率（%）	コード	銘柄	終値（円）	騰落率（%）	上位セクター	騰落率（%）
4410	ハリマ化成グループ	1,355.0	31.68	2737	トーメンデバイス	24,050.0	-25.54	海運業	6.04
4228	積水化成品工業	725.0	27.42	3475	グッドコムアセット	1,125.0	-20.94	鉱業	4.86
9551	メタウォーター	3,700.0	25.64	6702	富士通	3,622.0	-19.10	空運業	4.34
4611	大日本塗料	1,902.0	17.55	4461	第一工業製薬	10,180.0	-18.30	銀行業	4.21
3843	フリービット	2,013.0	15.23	6370	栗田工業	5,647.0	-18.03	ガラス・土石製品	1.58
6445	ジャノメ	1,506.0	15.14	5482	愛知製鋼	2,338.0	-17.91	証券業	1.16
9536	西部ガスホールディングス	2,794.0	13.62	4475	ＨＥＮＮＧＥ	2,091.0	-15.34	化学工業	0.98
8070	東京産業	1,207.0	12.91	7148	ＦＰＧ	1,400.0	-15.10	下位セクター	騰落率（%）
7970	信越ポリマー	2,536.0	12.86	4784	ＧＭＯインターネット	422.0	-14.05	機械	-2.45
1871	ピーエス・コンストラクション	2,310.0	12.03	3548	バロックジャパンリミテッド	534.0	-14.01	電気機器	-2.32
7384	プロクレアホールディングス	4,280.0	11.17	9449	ＧＭＯインターネットグループ	3,248.0	-13.82	食料品	-1.58
7309	シマノ	20,570.0	10.86	4310	ドリームインキュベータ	2,213.0	-13.15	その他製品	-1.57
8387	四国銀行	3,920.0	10.58	9889	ＪＢＣＣホールディングス	2,050.0	-12.51	非鉄金属	-1.40
5344	ＭＡＲＵＷＡ	51,470.0	10.55	6923	スタンレー電気	3,169.0	-12.46	電力・ガス業	-0.96
8364	清水銀行	2,837.0	10.52	6436	アマノ	3,581.0	-12.25	パルプ・紙	-0.96

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

上値重い…26 週線の下向き転換を警戒

■売り手優勢の地合いが続くか

先週（10 月 26-30 日）の日経平均株価は 3 週ぶりに上昇した。1 週間の上げ幅は 596.95 円（先々週 2631.13 円安）だった。

先週の日経平均は一旦値戻しに向かい、29 日には 64831.29 円まで上昇したが、節目の 65000 円には届かず、週末 30 日は 1369.36 円安と大幅に下落して終了した。この間、25 日移動平均線は株価上方で下降を続け、下落トレンド継続を示唆した。

今週の日経平均は上値が重くなろう。25 日線に加え、13 週線も下向きで推移して調整長期化を警告している。一目均衡表は三役逆転の弱気形状を脱していない。応答日株価がピークを形成する 11 月 13 日にかけて弱気シグナルが急速に増大しやすく、売り手優勢の地合いが続きそうだ。

週足では先週、下降中の 13 週線が 26 週線を下回った。26 週線が上向きを維持しているためデッドクロスには該当しないが、26 週線の下向き転換時には中長期ベースでの地合い悪化を警告することとなろう。

先週末終値が 25 日線を上回る銘柄は、日経平均の算出対象の 225 銘柄のうち 100 銘柄（先々週末 92 銘柄）に増加したが、プライム市場全銘柄で 34%（先々週末 39%）と減少しており、相場全体では短中期投資家の含み損益悪化と買い余力低下が窺える。

ボリンジャーバンド（25 日ベース）では、先週終値が-1σを小幅に下回る売り手優勢の位置。直近 3 週末終値の 1σの値幅は 2226.19 円→2389.63 円→2572.34 円と拡大しており、今週も値動きの荒い相場となろう。

上値では、先週 29 日高値 64831.29 円から節目の 65000 円までが抵抗帯として意識されるが、65000 円を上抜いても 25 日線（66093.23 円）を上放れるまでは株価上昇がダマシに終わるリスクに留意したい。下値では先週末安値 61462.61 円前後が抵抗ゾーンとして期待される。今週末終値が 61409.29 円（先週末比 1880.82 円安）を下回れば 26 週線が下向きに転じ、中長期ベースの調整色がさらに強まろう。



本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

FRONTEO〈2158〉グロース

AI 創薬の協業拡大が追い風、株価は上昇基調へ

■AI創薬の協業拡大、情報漏洩対策需要にも期待

独自開発の人工知能(AI)「KIBIT」を活用し、創薬支援や企業の不正調査などを展開。AI 創薬分野では 10 月に大塚製薬との腎領域での共同研究を開始したほか、マルホとの皮膚科領域での共同研究も第 2 弾へ進展。また、不正リスクを検知する「KIBIT Eye」に画像データ解析機能を追加しており、情報漏洩対策需要の高まりも追い風となりそうだ。

売買単位	100 株
10/30 終値	726 円
目標株価	1000 円
業種	サービス

■先行投資で1Q赤字も、下期の収益回復に期待

27 年 3 月期第 1 四半期は売上高が前年同期比 5.6%増の 16.32 億円、営業損失が 1.79 億円となった。ライフサイエンス AI 事業が同 29.2%増収、DX 事業が同 64.4%増収と好調だった一方、リスクマネジメント事業は大口顧客の解約などで減収。AI 創薬分野への人材投資も利益を圧迫した。通期では売上高 76.0 億円、営業利益 3.0 億円を計画しており、前期比では大幅減益を見込む。ただ、株価は 1Q 決算発表後も底堅く推移しており、業績悪化への警戒感は一定程度織り込まれた可能性がある。足元では AI 創薬分野の事業拡大期待が株価を支えているとみられ、25 日移動平均線と 200 日移動平均線のゴールデンクロス形成を契機とした一段高に期待したい。目標株価は 1000 円とする。

★リスク要因

AI 創薬案件の進捗遅延など。

2158:日足

25 日線と200 日線のゴールデンクロス接近。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2023/3連	7,215	-34.0%	-1,361	-1,292	-	-1,701	-
2024/3連	7,375	2.2%	-185	-168	-	-2,843	-
2025/3連	6,099	-17.3%	527	543	-	555	14.10
2026/3連	7,643	25.3%	739	675	24.3%	544	13.86
2027/3連予	7,600	-0.6%	300	250	-63.0%	150	3.82

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

カネカ〈4118〉プライム

ヘルスケア事業などで高い収益成長目指す、第1四半期営業利益は83.1%増

■3年後の営業利益は2倍超目標

化成品や塩ビ樹脂などの「マテリアル」事業が売上高の 40%を占め、高機能フィルムや太陽電池、繊維などの「クオリティ・オブ・ライフ」事業が 24%、医療用製品や医薬などの「ヘルスケア」事業が 10%、食品やサプリメントなどの「ニュートリション」事業が 25%となっている。エレクトロニクスや情報通信、医療分野など先端事業の営業利益構成比率は 53%(26 年 3 月期)と、全体の半分を超えた。26 年 5 月に発表した中期経営計画では、同比率を 29 年3 月期に 62%まで高める計画を掲げている。ヘルスケア事業などで高い収益成長を見込み、29 年 3 月期連結営業利益は 680 億円計画と、3 年間で 2 倍以上に伸ばす計画。

■価格改定が奏功

27 年 3 月期第 1 四半期売上高は 2230.25 億円(前年同期比 12.3%増)、営業利益は 149.44 億円(同 83.1%増)。原材料コストの上昇に対し、価格改定を通じ機動的に対応できたことが奏功し、収益が伸長した。27 年 3 月期通期売上高は 8200 億円(前期比 1.0%増)、営業利益は 360 億円(同 9.4%増)予想。株価は高値圏で底堅く推移している。やや中期的だが、中期経営計画で目標とする PBR=1 倍となる 8280 円を目標株価としたい。

売買単位	100 株
10/30 終値	6231 円
目標株価	8280 円
業種	化学

★リスク要因

原材料コストの一段の上昇など。

4118:日足

75 日線が下値を支える形。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2023/3連	755,821	9.3%	35,087	32,411	-20.6%	23,008	349.59
2024/3連	762,302	0.9%	32,579	29,222	-9.8%	23,220	357.90
2025/3連	807,200	5.9%	40,050	32,863	12.5%	25,309	400.91
2026/3連	811,638	0.5%	32,894	28,873	-12.1%	30,977	501.26
2027/3連予	820,000	1.0%	36,000	32,000	10.8%	31,500	523.04

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項(ディスクレーマー)をお読みください。

jig.jp〈5244〉グロース

主力事業の復調に加え、スマート眼鏡の成長に期待

■スマート眼鏡「SABERA」の本格展開に期待

ライブ配信サービス「ふわっち」を主力に、バーチャル音楽ライブ配信や VTuber 事業などを展開。新たな成長領域としてスマート眼鏡(AR グラス)「SABERA(サベラ)」が注目される。福井県鯖江市の眼鏡メーカーのデザイン力と AR 光学技術を組み合わせ、リアルタイム翻訳やナビゲーション、AI アシスタントなどに対応する。先行販売では応援購入総額が 3 週間弱で 1 億円を突破し、10 月 27 日から一般販売を開始。楽天モバイルショップへの体験・販売コーナー設置も予定しており、認知度向上と販売拡大が期待される

■主力事業が復調、新規事業の収益貢献にも注目

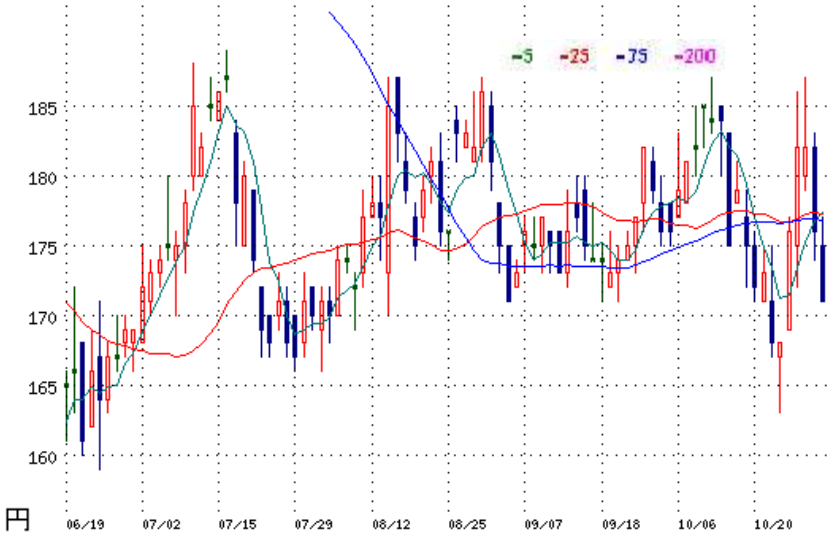
27 年 3 月期第 1 四半期は売上高が前年同期比 10.8%増の 41.0 億円、営業利益が同 15.6%減の 4.84 億円となった。新規事業への先行投資などで減益となったものの、主力の「ふわっち」では前四半期比で課金ユーザー数とユーザー1 人当たり平均課金額がともに改善し、復調の兆しがみられる。通期は売上高が前期比 12.8%増の 165.0 億円、営業利益が同 0.2%増の 19.8 億円を計画。SABERA の先行販売分の売上高約 2 億円も第 2 四半期以降に計上される見込みだ。先行投資負担には留意が必要だが、主力事業の収益改善と新規事業の成長が確認されれば、株価の見直し余地があろう。目標株価は 250 円とする。

売買単位	100 株
10/30 終値	171 円
目標株価	250 円
業種	情報・通信

★リスク要因

新規事業の立ち上げ遅延など。

5244:日足



25 日線・75 日線を挟んだ攻防続く。

(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2023/3連	10,503	16.9%	990	986	-	978	23.29
2024/3連	12,247	16.6%	1,804	1,823	84.9%	1,214	28.88
2025/3連	13,796	12.6%	2,012	1,858	1.9%	1,077	25.69
2026/3連	14,631	6.1%	1,976	1,821	-2.0%	1,155	27.78
2027/3連予	16,500	12.8%	1,980	1,830	0.5%	1,160	28.15

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項(ディスクレーマー)をお読みください。

アルバック〈6728〉プライム

真空技術がコアテクノロジー、半導体電子関連事業が成長を牽引

■AI・データセンター市場は全方位で需要獲得へ

コアテクノロジーである真空技術を基盤に、半導体、電子部品製造装置、ディスプレイ・エネルギー関連製造装置、一般産業用装置、真空計などのコンポーネント、先端材料、表面分析装置などを手掛ける。事業成長を牽引しているのが半導体電子関連事業。15年6月期に20%だった同事業の売上高構成比は26年6月期に36%に拡大。31年6月期には60%に高める目標を掲げている。また、AI・データセンター市場で、半導体製造や通信、給配電システムなど、全方位で需要を獲得し、31年6月期連結売上高3600億円、営業利益790億円を目指している。

■27年6月期営業利益は42.9%増予想

26年6月期通期売上高は2691.30億円(前期比7.1%増)、営業利益は195.98億円(同26.1%減)。一過性のEV関連費用(貸倒引当金や追加コスト)の計上や、半導体製造装置の一部大口案件で売上計上が期ずれしたことなどから営業減益となったが、

売買単位	100 株
10/30 終値	7419 円
目標株価	9750 円
業種	電気機器

受注高は3242億円と過去最高。27年6月期通期売上高は2550億円(前期比5.3%減)、営業利益は280億円(同42.9%増)予想。ディスプレイ関連の売上高減少を見込むが、AIデータセンター向けの幅広い需要が利益寄与すると見ている。株価はやや調整局面だが業績は好調だ。8月高値9750円を目標株価としたい。

★リスク要因

AI投資の過剰感など。



6728:日足

25日線や75日線上抜け後の上昇に期待。

(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2023/6連	227,528	-5.7%	19,946	22,880	-28.9%	14,169	287.70
2024/6連	261,115	14.8%	29,771	29,785	30.2%	20,233	410.67
2025/6連	251,184	-3.8%	26,523	28,605	-4.0%	16,687	338.74
2026/6連	269,130	7.1%	19,598	19,908	-30.4%	17,092	347.41
2027/6連予	255,000	-5.3%	28,000	28,000	40.6%	19,000	386.20

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項(ディスクレーマー)をお読みください。

シチズン時計〈7762〉プライム

時計・工作機械・デバイス事業を展開、第 1 四半期営業利益は前年同期比 2.1 倍

■中期計画は前倒し達成の見込み

1918 年創業。1986 年には腕時計世界生産(ムーブメント換算)で世界一となっている。現在の腕時計の世界シェアは 0.99%で、国内ではセイコー(1.02%)に次ぎ 2 位。(25 年、市場分析研究所調べ)。精密加工技術を活かし 1961 年に工作機械の外販を開始し、64 年に事務機器分野に進出した。現在の事業は、時計事業が 57%を占め、工作機械事業が 25%、水晶振動子や小型精密モーターなどのデバイス事業が 18%となっている。海外売上高比率は 77%(26 年 3 月期)。28 年 3 月期に売上高 3600 億円、営業利益率 9%を目標とする中期経営計画が進行中だが、各セグメントが好調で、1 年前倒しで今期、目標を達成する見込み。

■27年3月期業績予想は8月に早くも上方修正

27 年 3 月期第 1 四半期売上高は 981.29 億円(前年同期比 30.3%増)、営業利益は 99.13 億円(同 2.1 倍)。時計は北米向けが好調。工作機械は半導体関連などで伸びている。27 年 3 月期通期売上高は 3950 億円(前期比 13.9%増)、営業利益は 405 億円(同 33.9%増)予想。8 月 14 日に、売上高を 9%、営業利益を 17%ほど、期初予想からそれぞれ引き上げた。株価はやや上値が重いが業績は好調。年初来高値 2920 円を目標株価としたい。

売買単位	100 株
10/30 終値	2184 円
目標株価	2920 円
業種	精密機器

★リスク要因

円相場の急激・大幅な変動など。

7762:日足

2000 円台前半で下値の堅い展開。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2023/3連	301,366	7.1%	23,708	29,096	6.4%	21,836	75.25
2024/3連	312,830	3.8%	25,068	30,810	5.9%	22,958	93.60
2025/3連	316,885	1.3%	20,592	23,024	-25.3%	23,876	97.91
2026/3連	346,808	9.4%	30,250	38,456	67.0%	31,100	127.48
2027/3連予	395,000	13.9%	40,500	43,500	13.1%	32,000	131.15

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項(ディスクレーマー)をお読みください。

みずほFG（8411） プライム

国内金利上昇と非金利収益の拡大で最高益更新へ、株主還元の強化にも期待

■好調な業績を背景に通期利益予想を上方修正

国内 3 メガバンクの一角。銀行、信託、証券、資産運用など幅広い金融サービスを国内外で展開する。国内法人を中心とした非金利ビジネスの活況に加え、国内金利の上昇に伴う預貸金利ざやの改善に加え、法人向けソリューション業務や証券関連ビジネスなど非金利収益の拡大が業績を押し上げている。2027 年 3 月期第 1 四半期の親会社株主純利益は前年同期比 45.5%増の 4,229 億円と大幅増益。好調な業績を受け、通期の純利益予想を従来の 1 兆 3,000 億円から 1 兆 4,000 億円（前期比 12.1%増）へ上方修正し、過去最高益の更新を見込んでいる。

■収益構造の高度化と資本効率改善に注目

株価は 9 月 30 日に年初来高値 8,903 円をつけた後、利益確定売りなどから調整し、10 月 29 日時点では 7,889 円となっている。中長期的には、国内金利の正常化による利ざや改善に加え、国内法人向け投資銀行業務、海外のコーポレート・インベストメントバンキング（CIB）、個人向け資産運用ビジネスの拡大が成長を支える見通し。AI 活用などを通じた経費削減や資本効率の改善も進めている。株主還元では 2027 年 3 月期に年間 150 円の配当を予定するほか、合計 2,000 億円を上限とする自己株式取得を決議し、9 月に取得を終了した。目先の目標株価は節目の 8,200 円とする。

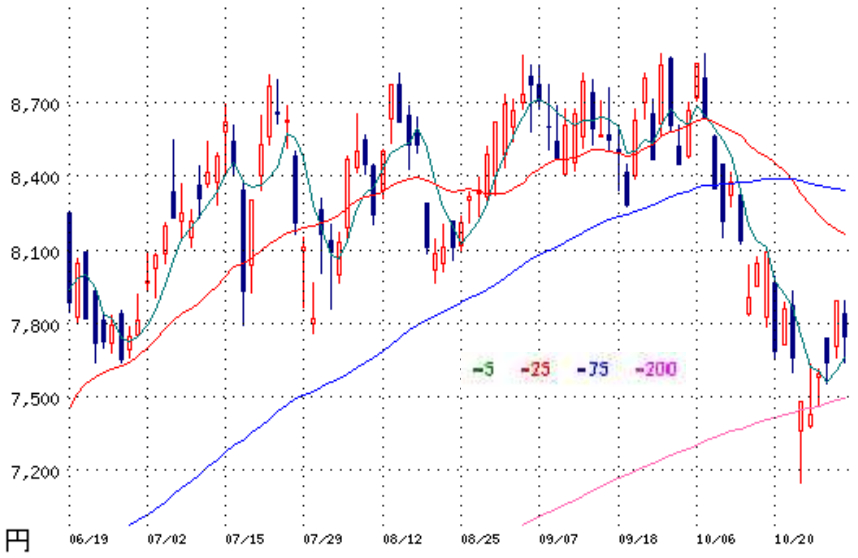
売買単位	100 株
10/30 終値	7749 円
目標株価	8200 円
業種	銀行

★リスク要因

国内外の景気悪化に伴う信用コストの増加など。

8411：日足

7100 円付近まで調整で戻りを試す展開。



（百万円）

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2023/3連	5,778,772	45.8%	-	789,606	41.0%	555,527	219.20
2024/3連	8,744,458	51.3%	-	914,047	15.8%	678,993	267.88
2025/3連	9,030,374	3.3%	-	1,168,141	27.8%	885,433	350.20
2026/3連	9,085,438	0.6%	-	1,573,159	34.7%	1,248,632	502.92
2027/3連予	-	-	-	-	-	1,400,000	575.08

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

JR 九州<9142> プライム

1Q は増収増益、熊本地震から全線復旧、配当は 121 円に増配へ

■1Qは増収・営業増益

九州全域をカバーする鉄道網を基盤に運輸サービスのほか不動産・ホテル、流通・外食、建設など多角的に事業を展開する。2027 年 3 月期第 1 四半期は売上高 1,258.19 億円(前年同期比 7.1%増)、営業利益 208.46 億円(同 4.4%増)で着地した。定期新単価への移行で鉄道旅客運輸収入が 430 億円(同 4.8%増)となったほか、不動産販売の増加やホテルの稼働率・客室単価の上昇も寄与し、建設の赤字幅も縮小した。通期は売上高 5,205 億円(前期比4.0%増)、営業利益750 億円(同1.3%増)の計画を据え置いたが、熊本地震の影響額は精査中としている。

■熊本地震から 74 日で全線復旧

株価は 2 月の年初来高値 4,154 円から調整が続き、10 月 14 日には年初来安値3,284 円をつけた。7 月 28 日に発生した熊本地震で九州新幹線や鹿児島本線が被災したが、新幹線は 9 月 18 日に全線再開し、在来線も 10 月 10 日に運行を再開して74 日ぶりに全線が復旧した。中期経営計画では 2027 年度に営業利益 810 億円を目指す。株主還元は連結配当性向 35%以上を基本とし、今期の年間配当は前期比 6 円増の 121 円(中間 60.5 円)を予定する。11 月 4 日の上期決算で地震影響の開示に注目しつつ、目先の目標株価は節目の 3,600 円への回復に期待する。

売買単位	100 株
10/29 終値	3470 円
目標株価	3600 円
業種	陸運

★リスク要因

地震復旧費用や沿線人口の減少など。



9142:日足

年初来安値圏から下げ渋る動き。

(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2023/3連	383,242	16.3%	34,323	35,700	286.5%	31,166	198.36
2024/3連	420,402	9.7%	47,094	48,936	37.1%	38,445	244.68
2025/3連	454,393	8.1%	58,976	59,571	21.7%	43,657	278.96
2026/3連	500,393	10.1%	74,040	74,032	24.3%	45,468	295.39
2027/3連予	520,500	4.0%	75,000	70,900	-4.2%	51,600	335.36

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項(ディスクレーマー)をお読みください。

日本空港ビルデング〈9706〉プライム

空港機能拡充と施設利用料改定が成長牽引、収益力向上にも期待

■第1四半期は大幅営業増益

羽田空港の旅客ターミナル運営を中核に、施設管理運営業、物品販売業、飲食業を展開する。2027 年 3 月期第 1 四半期の売上高は 741.26 億円(前年同期比 7.4%増)、営業利益は 143.62 億円(同 40.7%増)で着地した。羽田空港の旅客数増加に加え、施設利用料や賃料の改定効果、円安を背景とした免税店売上の伸長が寄与した。通期計画では売上高 2,967 億円(前期比 2.4%増)、営業利益 456 億円(同 1.2%増)を見込む。第 1 四半期の営業利益は上期計画に対して 61.6%の進捗率となったが、一部費用の発生時期のずれもあり、通期予想を据え置いている。

■空港機能の拡充と既存営業資産の収益力向上に期待

今後は空港機能の拡充と既存営業基盤の有効活用による収益成長が期待される。9 月には第 1 ターミナル北側サテライトが供用を開始し、搭乗機能の拡充や旅客利便性の向上が進む。中期経営計画では 2026～2030 年度に約 1,000 億円の成長投資を予定しており、ターミナルの大規模改修や店舗改装、空港運営の高度化を推進する。設備更新や減価償却費の増加を吸収しながら、2030 年度に営業利益 550 億円以上を目指す。11 月 6 日予定の上期決算では、通期予想の修正有無や設備投資の収益貢献が注目される。

売買単位	100 株
10/30 終値	5,765 円
目標株価	6,000 円
業種	不動産

★リスク要因

航空需要やインバウンド消費の減速など。



9706:日足

節目の 5800 円を突破。

(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2023/3連	113,050	98.1%	-10,579	-12,064	-	-3,901	-
2024/3連	217,578	92.5%	29,527	27,225	-	19,255	206.75
2025/3連	269,923	24.1%	38,557	35,723	31.2%	27,470	295.61
2026/3連	289,823	7.4%	45,043	43,704	22.3%	29,139	313.95
2027/3連予	296,700	2.4%	45,600	45,800	4.8%	24,200	260.71

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項(ディスクレーマー)をお読みください。

アドバンテスト　プライム〈6857〉／目先は 3 万円レベルでの下値支持再確認へ

週央にかけて大幅続伸。28 日に第 2 四半期の決算を発表、7-9 月期営業利益は 2668 億円で前年同期比 2.5 倍となり、2200 億円程度であった市場予想を大きく上振れている。また、通期計画は 8460 億円から 9670 億円、前期比 93.7%増に上方修正、これは 8800-8900 億円程度のコンセンサス水準も上回っている。第 1 四半期決算時に続く上方修正で、高い市場期待も超過する決算内容に。1100 万株、2800 億円を上限とする自社株買いの実施発表もプラス材料となる。

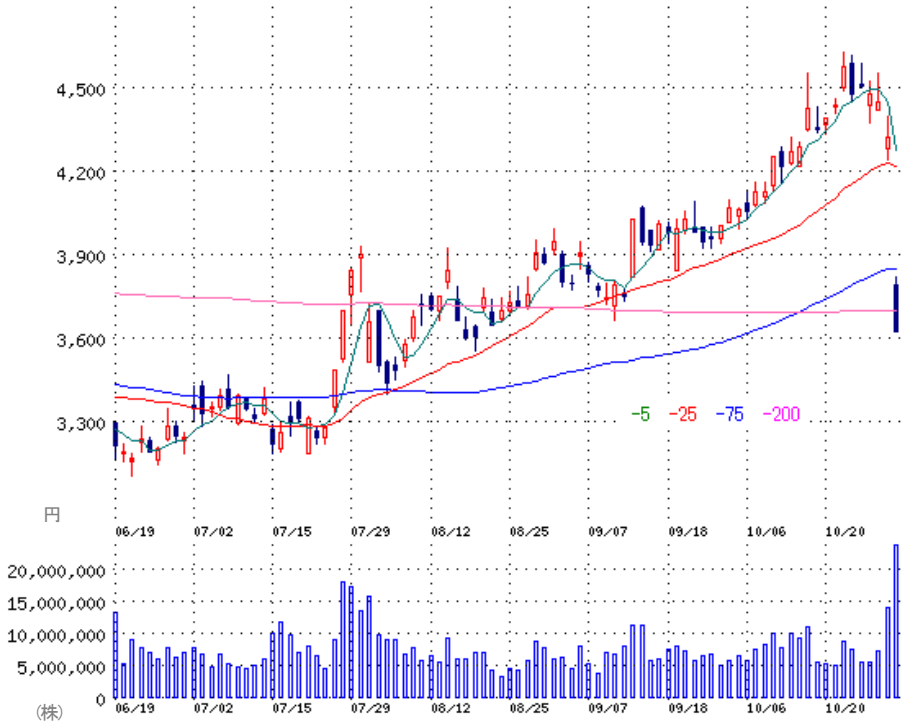
ただ、当日は AI・半導体関連株高の地合いも大きな支援になったとみられ、関連株安の翌日は大幅反落に。先週末の米国市場では AI 関連株が大幅続落、妥当バリュエーションの低下に伴う株価調整が強まる公算。短期的な押し目買いのタイミングとしては、再度 30000 円水準での下げ止まりを確認できた場合となろう。



富士通　プライム〈6702〉／粗利改善が期待ほど進まずコンセンサス大幅下振れ

先週末は大幅続落。25 日線を大きく割り込み、トレンドが完全に崩れる状況となっている。29 日に第 2 四半期の決算を発表、7-9 月期調整後営業利益は 590 億円で前年同期比 31.6%減となり、770 億円程度の市場予想を大きく下振れ。不採算案件の損失などによって、IT サービス事業における粗利益率の改善が期待ほど進まず、この点が特にネガティブ視される形となった。通期予想は 4250 億円を据え置きも、達成ハードルは強まったとの見方に。

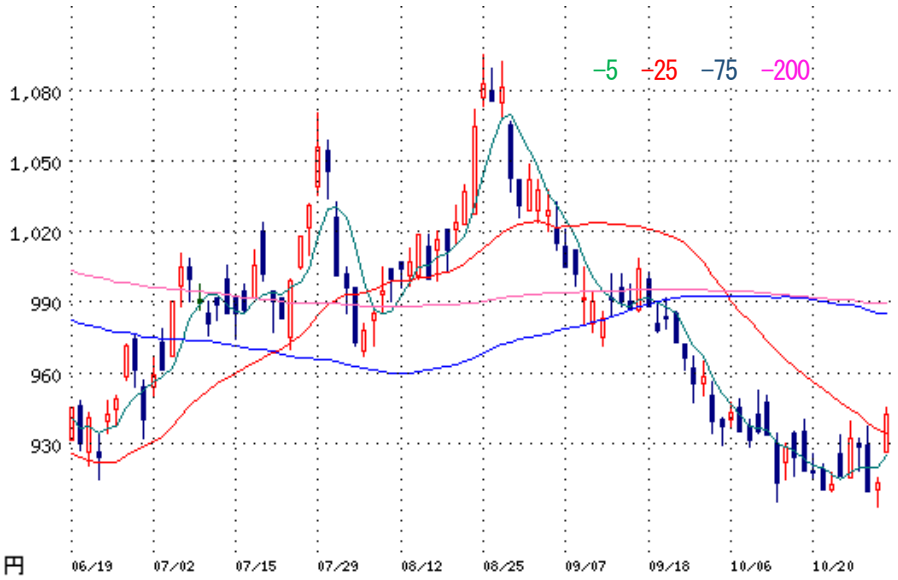
先には NEC〈6701〉も決算を受けて大幅安となっているほか、米国市場でもセールスフォースやサービスナウが週末にかけて下落。情報サービスセクター大手への強気の見方が後退し、短期的な反発力も限定的となろう。また、期待が高まりつつあったセキュリティ関連分野の寄与も、事業規模からみると限定的にとどまるといった見方が強まっているもよう。



本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

イズミ　東証プライム〈8273〉

日足ベースのローソク足。先週末はマドを空けて陽線を描き、終値は9月3日以来およそ2カ月ぶりに25日移動平均線の上方に復帰し、地合い改善を示唆した。先週末終値は10月14日安値905円と29日安値903円の中間高値940円を上回っており、ダブルボトム形成による反騰局面入りが期待できよう。25日線の上向き転換ラインが下がっていく局面にあり、25日線の上向き転換とともに上昇基調を強める展開が予想される。



日本航空　東証プライム〈9201〉

週足ベースの一目均衡表。先週はローソク足が上ヒゲのない「陽の大引け坊主」を示現して買い圧力の強まりを窺わせるとともに、終値は3週ぶりに転換線を上回り、三役好転下の買い手優勢形状が鮮明になった。基準線は2月最終週を直近ピークに下降と横ばいを繰り返してきたが、先週は上向きに転換して上値追い再開を示唆しており、2月高値3272円奪回に向けて歩を進める展開が期待できよう。



本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

テーマ別分析：宇宙安全保障への関心高まる、関連技術の活用拡大へ

■安全保障分野で宇宙利用の重要性高まる

人工衛星は通信や測位、情報収集など幅広い分野で活用されており、安全保障上の重要性が高まっている。地政学的リスクが高まるなか、各国では衛星を活用した監視・偵察能力の強化に加え、宇宙空間における脅威への対応や衛星の安定運用が重要な課題となっている。国内でも防衛省が 10 月、人工衛星が機能を失った際に迅速に代替衛星を打ち上げる「即応宇宙輸送能力」に関する民間企業からの提案募集を開始するなど、宇宙領域における防衛能力の強化に向けた動きが進んでいる。

こうしたなか、民間企業が持つ宇宙関連技術の安全保障分野への活用にも期待が高まっている。小型 SAR 衛星による地表観測は、天候や昼夜に左右されにくい情報収集手段として注目されるほか、衛星通信網の整備や宇宙ごみの除去、衛星の点検・保全なども宇宙インフラの安定運用に欠かせない技術となる。また、衛星の小型化や打ち上げ技術の高度化が進めば、宇宙利用の機動性向上にもつながろう。下表では、衛星の開発・運用、ロケット関連技術、衛星通信・情報システムなどを手掛ける関連企業を取り上げている。

■主な「宇宙安全保障」関連銘柄

コード	銘柄略称	市場	10/30 株価（円）	概要
186A	アストロスケールHD	グロース	1,125	宇宙ごみの除去や衛星の点検・監視など軌道上サービスを開発。
2359	コア	プライム	2,003	準天頂衛星「みちびき」を活用した高精度測位システムを展開。
290A	Synspective	グロース	1,358	小型SAR衛星を開発・運用し、衛星画像による地表観測サービスを提供。
3741	セック	プライム	2,990	人工衛星や宇宙機の制御に用いるリアルタイムソフトウェアを開発。
402A	アクセルスペースHD	グロース	230	小型衛星の開発・製造や地球観測データの提供を手掛ける。
4275	カーリット	プライム	1,746	ロケット用固体推進薬の原料となる過塩素酸アンモニウムを製造。
4403	日油	プライム	2,799	ロケット用固体推進薬の開発・製造を手掛ける。
464A	QPSHD	グロース	1,383	小型SAR衛星を開発・運用し、安全保障向けの衛星情報収集にも参画。
6503	三菱電機	プライム	4,640	人工衛星や防衛用レーダー、衛星通信システムなどを開発・製造。
6701	日本電気	プライム	4,850	人工衛星や地上管制システム、防衛向け情報通信システムを展開。
6838	多摩川HD	スタンダード	1,139	高周波無線技術を活用した通信関連機器を展開。
7011	三菱重工業	プライム	3,413	H3ロケットの開発・製造を担い、防衛・宇宙関連事業を幅広く展開。
7013	IHI	プライム	2,331	子会社を通じてロケットの推進系や宇宙関連機器を開発・製造。
7721	東京計器	プライム	5,510	小型SAR衛星向けマイクロ波機器や防衛関連機器を開発・製造。
9412	スカパーJSAT	プライム	1,808	衛星通信事業を展開し、防衛向け衛星通信や情報収集事業にも参画。

出所：フィスコ作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

決算期が異なる逆行高のバリュー株

■先週末にかけて米国市場では AI 関連株が大幅続落

先週末にかけて、米国市場では AI・半導体関連銘柄が大幅に続落。AI 過剰投資への懸念が再燃しつつある中、今後はアンソロピック上場観測を背景に換金売りの動きも強まると想定され、東京市場においても同関連銘柄には買い控えムードが強まる公算。物色のシフト先として、日経平均が直近で高値を付けた 6 月 25 日から（AI・半導体関連株の上昇が一服してから）逆行高となっているバリュー株が挙げられるとみられる。この中で、現在 7-9 月期の決算発表が本格化しているため、相対的にリスクの小さい決算期が違う銘柄をスクリーニングしている。

スクリーニング要件としては、①6 月 25 日終値比で株価パフォーマンスがプラス、②プライム市場上場、③時価総額が 1000 億円以上、④PER が 15 倍以下、⑤PBR が 1.5 倍以下、⑥決算月が 1, 2, 4, 5, 7, 8, 10, 11 月銘柄。

■7-9 月期決算発表のない逆行高のバリュー銘柄

コード	銘柄	市場	10/30株価（円）	時価総額（億円）	株価騰落率（%）	PER（倍）	PBR（倍）	予想1株利益（円）
1766	東建コーポレーション	プライム	12,610.0	1698.8	1.37	9.61	1.20	1312.40
1928	積水ハウス	プライム	3,482.0	22688.2	6.16	10.08	1.05	345.55
3050	DCMHD	プライム	1,610.0	2358.7	8.56	12.81	0.75	125.71
3201	日本毛織	プライム	2,074.0	1540.6	22.79	14.63	1.06	141.78
6183	ベルシステム24HD	プライム	1,344.0	1001.6	1.82	11.76	0.35	114.33
7516	コーナン商事	プライム	4,660.0	1616.2	16.35	10.50	0.76	443.80
8016	オンワードHD	プライム	768.0	1090.0	6.22	9.33	1.12	82.34
8057	内田洋行	プライム	2,427.0	1264.4	24.59	11.40	1.40	212.89
8227	しまむら	プライム	3,359.0	7439.5	2.94	14.74	1.43	227.92
8276	平和堂	プライム	2,597.0	1338.7	1.41	13.11	0.66	198.16
9627	アインHD	プライム	5,510.0	1952.1	1.85	12.91	1.22	426.74
9678	カナモト	プライム	5,680.0	2087.0	6.77	14.27	1.27	376.23
9842	アークランズ	プライム	1,907.0	1234.5	0.58	11.92	0.95	159.97
9974	ベルク	プライム	6,500.0	1356.4	3.34	13.68	1.12	475.26

（注）株価騰落率は6月25日終値比

出所：フィスコアプリより作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

TOPIX 除外銘柄の中長期的な影響を検証

■ガバナンス改善が株価評価の鍵に

SMBC 日興証券は、TOPIX から除外された銘柄に注目している。10 月末から TOPIX のルール変更第 2 弾が始まることを受け、2022 年からの第 1 弾で除外された約 400 銘柄を対象に、中長期的な影響を検証した。その結果、除外銘柄ではバリュエーションや流動性の低下、個人・外国人保有比率の上昇などがみられた。ただ、除外前からの傾向も考慮すると、指数除外による影響と考えられるのは、企業価値を示すトービンの Q と社外取締役比率の低下に限られるという。同証券では、指数除外の中長期的な影響は限定的とし、ガバナンス改善や収益性向上が株価上昇につながる可能性を指摘。今後の除外対象銘柄から、社外取締役比率が高く、トービンの Q が低い割安な銘柄を抽出している。

「TOPIX から除外される銘柄のスクリーニング」(SMBC 日興証券)

	コード	銘柄名	GICS	株価(10月23日)	時価総額(百万円)	P/B FYA	P/E FY2	トービンQ FYA	社外取締役比率	女性取締役比率
1	8281	ゼビオHD	一般消費財	1,097	52,558	0.38	10.11	0.29	62.5%	12.5%
2	7241	フタバ	一般消費財	1,008	90,297	0.65	6.02	0.44	54.5%	18.2%
3	4569	杏林製薬	ヘルスケア	1,125	67,439	0.46	43.51	0.47	54.5%	9.1%
4	6339	新東工	資本財	1,110	60,585	0.50	15.15	0.49	56.3%	12.5%
5	3028	アルペン	一般消費財	2,438	94,809	0.74	14.36	0.51	55.6%	22.2%
6	9991	ジェコス	資本財	1,792	60,562	0.85	10.09	0.52	55.6%	33.3%
7	2613	Jオイル	生活必需品	2,285	76,567	0.69	11.78	0.58	70.0%	10.0%
8	2664	カワチ薬品	生活必需品	4,080	100,300	0.77	30.39	0.58	62.5%	12.5%
9	7613	シークス	情報技術	1,644	82,858	0.70	9.69	0.60	58.3%	8.3%
10	6118	アイダ	資本財	1,201	71,654	0.74	16.10	0.61	55.6%	11.1%
11	2060	フィードワン	生活必需品	1,439	55,369	0.88	7.42	0.61	66.7%	11.1%
12	4886	あすか薬HD	ヘルスケア	2,006	57,699	0.81	11.10	0.62	53.8%	23.1%
13	1938	日リーテック	資本財	2,452	61,589	0.90	9.93	0.62	58.3%	33.3%
14	7128	ユニソルHD	資本財	3,035	73,745	0.99	32.06	0.64	55.6%	22.2%
15	2053	中部飼	生活必需品	2,034	61,776	0.78	11.03	0.65	54.5%	27.3%
16	6644	大崎電	情報技術	1,339	62,822	1.03	11.85	0.65	60.0%	30.0%
17	6820	アイコム	情報技術	3,625	53,831	0.71	16.82	0.66	55.6%	11.1%
18	9519	レノバ	公益事業	744	67,925	0.51	17.42	0.67	54.5%	9.1%
19	4246	DNC	一般消費財	1,037	73,625	0.75	8.98	0.68	53.8%	23.1%
20	3668	コロプラ	コミュニケ	388	50,575	0.74	45.98	0.68	55.6%	22.2%
21	9324	安田倉	資本財	2,624	79,665	0.72	16.60	0.68	53.8%	7.7%
22	9755	応用地質	資本財	2,699	65,645	0.78	16.62	0.69	55.6%	22.2%
23	3636	三菱総研	情報技術	5,470	87,761	1.12	12.72	0.69	53.8%	23.1%
24	1945	東京エネシス	資本財	1,957	65,019	0.90	11.82	0.70	72.7%	27.3%
25	6523	PHCHD	ヘルスケア	1,281	163,107	0.96	9.16	0.73	63.6%	18.2%
26	4997	日農薬	素材	1,057	86,639	0.94	10.19	0.75	0.55	36.4%
27	3632	グリーHD	コミュニケ	434	78,011	0.78	12.19	0.75	66.7%	11.1%
28	6419	マースGHD	一般消費財	3,105	70,546	0.63	12.38	0.76	57.1%	14.3%
29	8014	蝶理	資本財	4,290	108,552	1.01	9.69	0.76	55.6%	33.3%
30	5992	中発条	一般消費財	3,695	94,379	1.08	31.88	0.76	55.6%	22.2%

注：2026 年 10 月以降、TOPIX から段階的に削除される 683 銘柄のうち、時価総額が 500 億円を超え、社外取締役比率が 50%を超える 103 銘柄について、トービンの Q（時価総額÷（自己資本＋有利子負債））の低い順に 30 銘柄を示す。業績予想は東洋経済。社外取締役比率および女性取締役比率は、直近の役員四季報のデータに基づく
出所：QUICK、東洋経済、SMBC 日興証券

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

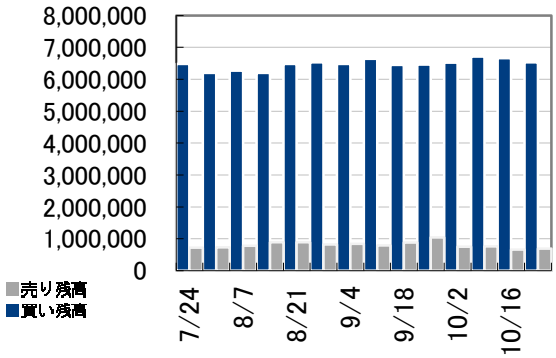
引き続き買い方は持ち高解消の流れ

10 月 23 日時点の 2 市場信用残高は、買い残高が 1299 億円減の 6 兆 5340 億円、売り残高が 215 億円増の 6885 億円。買い残高が 2 週連続の減少、売り残高は 2 週間ぶりの増加となった。また、買い方の評価損益率は－10.41%から－13.50%、売り方の評価損益率は 12.75%から 10.72%に。なお、信用倍率は 9.99 倍から 9.49 倍となった。

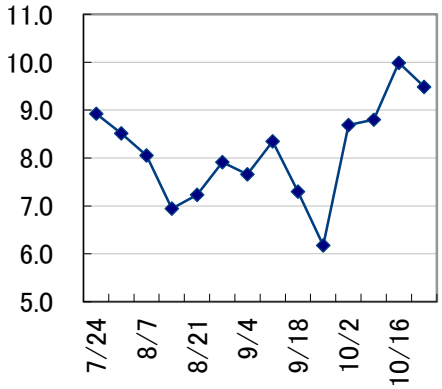
この週（10 月 19 日－23 日）の日経平均は前週末比 2631.13 円安の 62693.16 円。米コアウィーブがあらためて急落したことで人工知能（AI）過剰投資への懸念が再燃したほか、原油先物相場の上昇も重なり売りが先行。週央にかけては、米スペース X の好決算が国内 AI・半導体関連株に波及する場面も見られた。週後半にかけては、米国では半導体製造装置のラムリサーチが決算発表後に時間外取引で下落したほか、メタ・プラットフォームズもフリーキャッシュフローが赤字転落となり、AI 過剰投資への警戒感につながった。22 日の日経平均は前日比 1713 円、週末 23 日にも一時 1445 円安に。ただ、同日は安値水準から大きく下げ渋って取引を終えた。

個別では、ギフト HD<9279>の信用倍率は 0.43 倍と、前週の 2.75 倍から売り長の需給状況に転じた。10 月決算企業であり、株価変動リスクを抑えて株主優待の取得を狙う、つなぎ売りとみられる新規の信用売りが積み上がっている。正栄食品工業<8079>の信用倍率は 0.10 倍と、前週の 0.21 倍から一段と売り長の状況となった。同社も 10 月末が株主優待の権利確定月であり、優待取りを狙った信用売りが積み上がったようだ。そのほか、ニデック<6594>は不正会計問題を巡り、役員責任調査委員会が歴代社長 5 人を含む 9 人の損害賠償責任を認定。上場維持に対する警戒感がくすぶるなかで信用売り残高が積み上がり、信用倍率は 8.36 倍（前週は 17.17 倍）に低下した。ただし、依然として買い長の需給状況にある。

信用残高 金額ベース　単位：百万円



信用倍率（倍）



取組みが改善した銘柄

コード	市場	銘柄	10/30終値（円）	信用買残（10/23:株）	信用売残（10/23:株）	信用倍率（10/23:倍）	信用買残（10/16:株）	信用売残（10/16:株）	信用倍率（10/16:倍）
9279	プライム	ギフトHD	2,399.0	273,800	633,600	0.43	335,500	121,900	2.75
6407	プライム	CKD	4,645.0	388,800	1,574,000	0.25	410,000	420,200	0.98
8331	プライム	千葉銀行	2,504.0	571,200	821,300	0.70	564,600	332,300	1.70
8079	プライム	正栄食品工業	4,125.0	44,000	427,300	0.10	33,200	156,300	0.21
6594	プライム	ニデック	1,801.0	7,443,400	890,800	8.36	7,766,000	452,200	17.17
2531	プライム	宝HD	2,812.0	75,200	547,700	0.14	77,300	297,800	0.26
6532	プライム	ベイカレント	11,825.0	248,800	285,900	0.87	350,400	268,300	1.31
4503	プライム	アステラス製薬	2,571.0	487,300	444,600	1.10	696,300	427,700	1.63
3197	プライム	すかいHD	3,632.0	185,700	426,200	0.44	219,800	341,400	0.64
6758	プライム	ソニーグループ	3,958.0	3,816,600	506,200	7.54	4,589,600	412,000	11.14
5016	プライム	JX金属	2,955.0	21,737,900	698,900	31.10	24,447,600	535,100	45.69
3382	プライム	7&I－HD	2,127.5	3,674,400	1,033,800	3.55	4,356,800	840,300	5.18
6098	プライム	リクルートHD	19,200.0	411,800	508,700	0.81	491,900	426,700	1.15
3905	グロース	データセクション	1,950.0	10,551,800	2,032,400	5.19	10,041,000	1,365,300	7.35
3387	プライム	クリレスHD	796	277,200	2,282,000	0.12	393,300	2,290,000	0.17

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

コラム：「サナエ」と呼ばれる日

米中間選挙の結果、共和党が上下両院で少数派に転落した場合、トランプ政権の日本に対する円安是正要求は一層強まるかもしれません。内政が手詰まりになれば、通貨政策を切り札に外交に活路を見出そうとすることが予想されるためです。高市政権は期待に応えられるでしょうか。

11 月 3 日の中間選挙を前に、トランプ氏の支持率は 3 割あまりに低迷しています。共和党が下院だけでなく上院でも過半数を失えば、減税や歳出を巡る政権の構想は議会の壁に突き当たります。財政拡張に歯止めがかかるとの期待からドルが買われれば、製造業復活を目指すトランプ政権には逆風となります。残る任期 2 年あまりで成果を示すには、通商交渉や為替を巡る外交に重点を置くことが必須でしょう。

かつてクリントン政権は対日貿易赤字の縮小を狙って円高を容認し、1995 年 4 月には一時 1 ドル＝79 円 75 銭と当時の史上最高値を記録しました。しかし、ドル安が他通貨にも波及するなか、ルービン財務長官の下で強いドルを重視する政策へ転換。その教訓からか、今年 7 月末の日米協調介入では、米国がユーロ売り・円買いを選択しました。ドルを直接売らずに円高を促し、基軸通貨への信認低下を避ける狙いがうかがえます。

一方、中国の人民元は第 2 次トランプ政権発足後、おおむね上昇基調をたどり、足元では 1 ドル＝6.66 元台と約 4 年ぶりの高値圏にあります。米中両首脳が関係改善を強調する背景には、元高を容認する中国への評価もあるはず。ただ、中間選挙でトランプ氏の求心力が低下すれば、中国が追加的な譲歩に応じる動機は弱まります。実際、中国人民銀行は元高の速度を抑える姿勢を示しています。

対照的に円は安値圏から抜け出せず、9 月の日米首脳会談でも円安が懸案となりました。高市政権内ではリフレ政策との決別を示唆する発言が相次ぐものの、財政拡張への警戒は根強く、円相場の回復には結び付いていません。食料品の消費税率引き下げも、財源が不明確なままでは財政不安を招きます。米国が求めるのは、一時的な為替介入よりも円安を助長しない政策への転換でしょう。

トランプ氏は 9 月の米中首脳会談で習近平氏を「President Xi」（習主席）と呼び、第二次世界大戦中の両国の協力にも言及。これに先立つ日米会談では、自身を「ドナルド」と呼んだ高市氏に対し「Prime Minister of Japan」（日本の首相）と名前を口にせず、政策協調の隔たりを感じさせました。「サナエ」の呼び名は、円安との決別が試金石になるのでしょうか。

※あくまでも筆者の個人的な見解であり、弊社の見解を代表するものではありません。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

1	スケジュール	経済カレンダー	2–4
		決算カレンダー	5–9
2	レーティング	格上げ・買い推奨	10
		格下げ・売り推奨	11
3	投資主体別売買動向	総括コメント	
		市場別データ	
4	新規上場銘柄	結果とスケジュール	12
5	一目均衡表雲抜け銘柄	雲上抜け銘柄（プライム）	13
		雲下抜け銘柄（プライム）	14

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

10月26日～11月1日※全て日本時間で表示

日付	曜日	時間	内容
11月2日	月	09:30	製造業PMI(10月)
		10:45	中・Ratingdog製造業PMI(10月)
		14:00	印・製造業PMI確定値(10月)
		17:55	独・製造業PMI確報値(10月)
		18:00	欧・ユーロ圏製造業PMI確報値(10月)
		23:45	米・製造業PMI確報値(10月)
		24:00	米・ISM製造業景況指数(10月)
		24:00	米・建設支出(9月)
			MabGenesisが東証グロースに新規上場(公開価格:830円)
			米・シカゴ連銀総裁が討論会の進行役を担当
11月3日	火	12:30	豪・オーストラリア準備銀行(中央銀行)が政策金利発表
		20:00	ブ・FGV消費者物価指数(IPC-S)(先週)
		20:25	ブ・週次景気動向調査
		22:00	ブ・製造業PMI(10月)
		24:00	米・製造業受注(9月)
		24:00	米・耐久財受注(9月)
		24:00	米・JOLT求人件数(9月)
			株式市場は祝日のため休場(文化の日)
			米・自動車販売(10月、4日までに)
			米・中間選挙
11月4日	水	08:50	マネタリーベース(10月)
		10:45	中・Ratingdogサービス業PMI(10月)
		10:45	中・Ratingdog総合PMI(10月)
		14:00	印・サービス業PMI確定値(10月)
		14:00	印・総合PMI確定値(10月)
		17:00	ブ・FIPE消費者物価指数(10月)
		17:55	独・サービス業PMI確報値(10月)
		17:55	独・総合PMI確報値(10月)
		18:00	欧・ユーロ圏サービス業PMI確報値(10月)
		18:00	欧・ユーロ圏総合PMI確報値(10月)
		19:00	欧・ユーロ圏CPI速報値(10月)
		22:15	米・ADP雇用統計(10月)
		22:30	米・貿易収支(9月)
		23:45	米・サービス業PMI確報値(10月)
		23:45	米・総合PMI確報値(10月)
		24:00	米・ISM非製造業総合景況指数(10月)
		30:30	ブ・ブラジル中央銀行が政策金利(セリック金利)発表
			Allganize Holdingsが東証グロースに新規上場(公開価格:1260円)

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

10月26日～11月1日※全て日本時間で表示

日付	曜日	時間	内容
11月5日	木	08:50	日銀政策委員会・金融政策決定会合議事要旨(9月17・18日分)
		09:30	サービス業PMI(10月)
		09:30	総合PMI(10月)
		16:00	独・製造業受注(9月)
		19:00	欧・ユーロ圏PPI(9月)
		21:00	ブ・鉱工業生産(9月)
		21:00	英・イングランド銀行(英中央銀行)が政策金利発表
		22:00	ブ・サービス業PMI(10月)
		22:00	ブ・総合PMI(10月)
		22:30	米・新規失業保険申請件数(先週)
		22:30	米・非農業部門労働生産性速報値(7-9月)
		28:00	メキシコ・中央銀行が政策金利発表
			米・クリーブランド連銀総裁がパネル討論会に参加
			米・リッチモンド連銀総裁が質疑応答に参加
			米・ダラス連銀総裁が討論会の進行役を担当
11月6日	金	08:30	毎月勤労統計-現金給与総額(9月)
		08:30	実質賃金総額(9月)
		08:50	対外・対内証券投資(先週)
		16:00	独・鉱工業生産(9月)
		19:00	欧・ユーロ圏小売売上高(9月)
		20:30	印・外貨準備高(先週)
		22:30	米・非農業部門雇用者数(10月)
		22:30	米・失業率(10月)
		22:30	米・平均時給(10月)
		24:00	米・ミシガン大学消費者マインド指数(11月)
		27:00	ブ・貿易収支(10月)
		29:00	米・消費者信用残高(9月)
			estieが東証グロースに新規上場(公開価格:1100円)
			米・ニューヨーク連銀総裁が欧州中央銀行(ECB)カンファレンスの対談に参加
			植田日銀総裁が国際通貨基金(IMF)主催の「2026 Michel Camdessus Central Banking Lecture」で講演
11月7日	土		中・外貨準備高(10月)

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

■(豪)オーストラリア準備銀行(中央銀行、RBA)政策金利発表
11 月 3 日(火)午後 0 時 30 分発表予定

(予想は、4.85%へ 0.25%利上げ)　前回 9 月会合では政策金利を 4.60%へ引き上げたが、9 月の消費者物価指数が前年比+4.3%と前月の+4.0%から加速したことを受け、今回も追加利上げが有力視されている。市場では 0.25%の利上げの確率が 8 割程度まで上昇しており、利上げ自体よりも今後の金融政策に対する声明文や経済・物価見通しが焦点となる。インフレ抑制に向けてさらなる利上げに前向きな姿勢が示されれば豪ドル買いにつながる一方、慎重な見解となれば豪ドルの上値を抑える可能性がある。

■(米)10 月 ISM 非製造業景況指数
11 月 5 日(木)午前 0 時発表予定

(予想は、54.7)　前回 9 月は 54.9 と 8 月の 55.4 から低下したものの、50 超の拡張圏を維持した。雇用指数は 50.1 と 3 カ月ぶりに拡張圏へ回復した一方、仕入れ価格指数は 74.0 と 22 年 7 月以来の高水準まで上昇しており、サービス業の底堅さとインフレ圧力の強さが確認された。今回は総合指数に加え、雇用指数や価格指数の動向が焦点となる。景況感と価格指数がともに強ければ連邦準備制度理事会 (FRB) の追加利上げ観測を支え、ドル買いにつながりやすい。

■(英)イングランド銀行(英中央銀行、BOE)政策金利発表
11 月 5 日(木)午後 9 時発表予定

(予想は、4.00%へ 0.25%利上げ)　前回 9 月会合では 6 対 3 で政策金利を据え置いたが、3 人の委員が利上げを主張した。9 月の消費者物価指数は前年比+3.5%と前月の+3.1%から加速しており、エネルギー価格の上昇などを背景に、市場では今回は 0.25%の利上げが有力視されている。焦点は同時に公表される金融政策報告書の物価見通しや、今後の追加利上げに対する姿勢となる。引き締め継続に前向きな内容となればポンド買いが強まりやすい一方、今回限りの利上げを示唆する慎重な内容となればポンド売りにつながる可能性がある。

■(米)10 月雇用統計
11 月 6 日(金)午後 10 時 30 分発表予定

(予想は、非農業部門雇用者数:前月比+5.5 万人、失業率:4.2%、平均時給:前年比+2.9%
11 月 6 日発表の米 10 月雇用統計では、失業率は 4.2% (9 月 4.2%)、非農業部門雇用者数は前月比+5.5 万人 (同+2.9 万人)、平均時給は前年比+2.9% (同+3.0%) と予想される。非農業部門雇用者数の増加幅が市場予想を上回れば、米労働市場の底堅さが意識され、引き締め的な金融政策をにらんだドル買いが入りやすい。一方、平均時給の伸びが鈍化すれば、インフレ圧力の緩和が意識され、ドルの上値を抑える要因となる可能性もある。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項(ディスクレーマー)をお読みください。

※なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻	日付	コード	銘柄	上場部名	時刻
11月2日	2003	日東富士	スタンダード		11月4日	3150	グリムス	プライム	16:00
	2220	亀田菓	プライム	13:00		3202	ダイトウボウ	スタンダード	14:00
	2282	日本ハム	プライム	15:40		3626	TISI	プライム	15:30
	2327	NSSOL	プライム	15:30		3636	三菱総研	プライム	16:00
	2489	アドウェイズ	スタンダード	14:00		3668	コロプラ	プライム	
	2551	マルサンアイ	名証			3844	コムチュア	プライム	15:30
	2816	ダイショー	スタンダード	15:00		4091	日本酸素	プライム	15:00
	2902	太陽化	名証			4107	伊勢化	スタンダード	15:30
	3132	マクニカHD	プライム	15:00		4203	住友ベ	プライム	11:00
	3191	ジョイ本田	プライム	15:00		4326	インテージHD	プライム	13:00
	3371	ソフトクリエHD	プライム	15:30		4503	アステラス薬	プライム	15:30
	3580	小松マテーレ	プライム	15:00		4547	キッセイ薬	プライム	15:30
	3914	JIG－SAW	グロース			4559	ゼリア新薬	プライム	16:00
	4005	住友化	プライム	13:30		4624	イサム塗	スタンダード	13:00
	4151	協和キリン	プライム	15:30		4772	SMENTER	グロース	
	4718	早稲アカ	プライム	15:30		4847	インテリW	プライム	15:30
	4736	日本ラッド	スタンダード	15:30		4886	あすかHD	プライム	15:30
	4746	東計電算	スタンダード	15:30		5449	大阪製鉄	スタンダード	13:00
	5187	クリエート	スタンダード	15:30		5451	ヨドコウ	プライム	11:00
	5367	ニッカトー	スタンダード	15:30		5632	菱製鋼	プライム	15:00
	5444	大和工	プライム	13:00		5697	サンユウ	スタンダード	16:00
	5703	日軽金HD	プライム	14:00		5821	平河ヒューテ	プライム	15:30
	5905	日カン	スタンダード	16:00		5857	AREHD	プライム	15:30
	5955	ワイズHD	スタンダード			5951	ダイニチエ	スタンダード	15:30
	5979	カネソウ	名証			6103	オークマ	プライム	15:40
	6200	インソース	プライム	17:00		6240	ヤマシンフィルタ	プライム	15:30
	6467	ニチダイ	スタンダード	15:00		6366	千代建	スタンダード	12:00
	6971	京セラ	プライム	15:00		6368	オルガノ	プライム	15:30
	7162	アストマックス	スタンダード	16:00		6643	戸上電	スタンダード	15:00
	7236	ティラド	プライム	16:00		6806	ヒロセ電	プライム	16:00
	7366	LITALICO	プライム	15:00		6809	TOA	プライム	15:00
	7480	スズデン	スタンダード			6817	スミダコーポ	プライム	
	7551	ウェッズ	スタンダード	16:00		6841	横河電	プライム	15:30
	7723	愛時計	プライム	14:00		6958	日本CMK	プライム	15:00
	7859	アルメディオ	スタンダード	15:30		7013	IHI	プライム	13:00
	7971	東リ	スタンダード	14:00		7296	エフ・シー・シー	プライム	15:00
	8053	住友商	プライム	13:00		7466	SPK	プライム	15:00
	8303	SBI新生	プライム			7565	万世電機	スタンダード	
	8473	SBI	プライム			7600	日本MDM	プライム	15:00
	9044	NANKAI	プライム	14:00		7609	ダイトロン	プライム	15:40
	9201	JAL	プライム	12:00		7729	東京精	プライム	15:30
	9351	東洋埠頭	スタンダード	16:00		7883	サンメッセ	スタンダード	15:00
	9682	DTS	プライム	15:30		7972	イトーキ	プライム	15:30
	9686	東洋テック	スタンダード	15:30		7995	バルカー	プライム	15:30
	9768	いであ	スタンダード	16:00		8001	伊藤忠	プライム	13:00
	9955	ヨンキュウ	スタンダード	15:30		8002	丸紅	プライム	11:00
11月4日	1723	日本電技	スタンダード			8031	三井物	プライム	12:00
	1787	ナカボーテック	スタンダード			8058	三菱商	プライム	14:00
	1799	第一建設	スタンダード	15:30		8081	カナデン	プライム	14:00
	1967	ヤマト	スタンダード	15:00		8242	H2Oリテイル	プライム	14:00
	2136	ヒップ	スタンダード	15:30		8255	アクシアル	プライム	
	2222	寿スピリッツ	プライム	15:00		8566	リコーリース	プライム	14:00
	2296	伊藤米久	プライム	12:00		9010	富士急	プライム	15:30
	2335	キューブシス	プライム	16:00		9059	カンダ	スタンダード	15:30
	2371	カカクコム	プライム			9064	ヤマトHD	プライム	15:30
	2413	エムスリー	プライム	15:30		9107	川崎船	プライム	15:30
	2440	ぐるなび	スタンダード	15:40		9127	玉井船	スタンダード	15:00
	2875	東洋水産	プライム	12:00		9142	JR九州	プライム	15:30
	299A	クラシル	グロース	15:30		9412	スカパーJSA	プライム	14:00
	3064	MonotaRO	プライム	15:30		9432	NTT	プライム	13:00

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

※なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻	日付	コード	銘柄	上場部名	時刻
11月4日	9845	パーカー	スタンダード	16:00		4926	シーボン	スタンダード	
	9878	セキド	スタンダード			4968	荒川化学	プライム	15:00
	9990	サックスバーH	プライム	15:30		4972	綜研化学	スタンダード	15:30
11月5日	1814	大末建	プライム	15:00		4975	JCU	プライム	15:30
	1869	名工建	名証			5185	フコク	プライム	16:00
	1897	金下建	スタンダード	11:30		5199	不ニラテ	スタンダード	14:00
	1898	世紀東	プライム	16:00		5201	AGC	プライム	13:00
	1911	住友林	プライム	15:30		5208	有沢製	プライム	16:00
	1945	東京エネシス	プライム	16:00		5261	リソル	プライム	14:00
	2148	ITM	プライム	15:30		5301	東海カーボ	プライム	15:30
	2307	クロスキャット	プライム	15:30		5331	ノリタケ	プライム	14:00
	2425	ケアサービス	スタンダード	16:00		5355	ルツボ	スタンダード	12:00
	2573	北海コカ	スタンダード	16:00		5384	フジミインコ	プライム	16:00
	2612	かどや	スタンダード	15:30		5391	A&AM	スタンダード	15:00
	2676	高千穂交	プライム	15:30		5401	日本製鉄	プライム	15:30
	2730	エディオン	プライム	11:00		5408	中山鋼	プライム	13:00
	3002	グンゼ	プライム	15:30		5851	リョービ	プライム	15:30
	3028	アルペン	プライム	15:30		5930	文化シヤタ	プライム	14:00
	3034	クオールHD	プライム	15:30		5940	不ニサッシ	スタンダード	14:00
	3059	ヒラキ	スタンダード	16:00		5947	リンナイ	プライム	10:00
	3110	日東紡	プライム	15:30		6050	EG	プライム	15:30
	3166	OCHI・HD	スタンダード	13:30		6073	アサンテ	プライム	12:30
	3167	TOKAIHD	プライム	15:00		6134	FUJI	プライム	15:30
	3232	三交GHD	プライム	16:00		6322	タクミナ	スタンダード	16:00
	3252	地主	プライム	15:30		6328	荏原実業	プライム	15:30
	3326	ランシステム	スタンダード			6339	新東工	プライム	15:40
	3401	帝人	プライム	11:30		6367	ダイキン	プライム	15:30
	3407	旭化成	プライム	12:30		6370	栗田工	プライム	15:30
	3420	ケーエフシー	スタンダード	13:00		6413	理想科	プライム	16:00
	3433	トーカロ	プライム	15:30		6417	SANKYO	プライム	11:00
	3566	ユニネク	グロース	16:00		6590	芝浦メカ	プライム	15:00
	3676	デジハHD	プライム	16:00		6622	ダイヘン	プライム	15:00
	3690	イルグルム	スタンダード	15:30		6644	大崎電	プライム	15:35
	3698	CRI・MW	スタンダード	15:30		6703	OKI	プライム	13:00
	3712	情報企画	スタンダード			6724	エプソン	プライム	15:30
	3837	アドソル	プライム	15:30		6745	ホーチキ	プライム	15:30
	3908	コラボス	スタンダード	15:30		6769	ザイン	スタンダード	15:30
	3941	レンゴー	プライム	13:00		6867	リーダー電	スタンダード	16:00
	4012	アクシス	スタンダード	12:00		6941	山一電	プライム	15:30
	4042	東ソー	プライム	13:00		6963	ローム	プライム	15:30
	4120	スガイ化	スタンダード	15:30		6976	太陽誘電	プライム	15:30
	4188	三菱ケミG	プライム	13:30		6994	指月電	スタンダード	13:00
	4189	KHネオケム	プライム	14:00		7004	カナデビア	プライム	15:30
	4202	ダイセル	プライム	13:00		7018	内海造	スタンダード	15:30
	4208	UBE	プライム	15:30		7089	フォースタ	グロース	15:30
	4310	DI	プライム	17:00		7130	ヤマエGHD	プライム	14:00
	4403	日油	プライム	14:00		7164	全国保証	プライム	15:30
	4452	花王	プライム	15:30		7203	トヨタ	プライム	
	4475	HENNGE	プライム	15:30		7212	エフテック	スタンダード	15:30
	4483	JMDC	プライム	15:30		7412	アトム	スタンダード	15:30
	4491	Cマネジメント	スタンダード	15:00		7421	カッパ・クリエ	プライム	15:00
	4536	参天薬	プライム	15:30		7459	メディパル	プライム	15:30
	4558	中京医薬	スタンダード			7461	キムラ	スタンダード	15:00
	4642	オリジナル設	スタンダード	15:00		7506	ハウスローゼ	スタンダード	15:30
	4674	クレスコ	プライム	16:00		7538	大水	スタンダード	15:00
	4678	秀英	スタンダード	15:30		7711	助川電	スタンダード	15:00
	4689	LINEヤフー	プライム	15:30		7731	ニコン	プライム	15:30
	4792	山田コンサル	プライム	12:00		7740	タムロン	プライム	15:00
	4902	コニカミノルタ	プライム	15:00		7841	遠藤製作	スタンダード	15:30
	4923	コタ	プライム	16:00		7857	セキ	スタンダード	15:30

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

※なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻	日付	コード	銘柄	上場部名	時刻
11月5日	7917	ZACROS	プライム	16:00		2475	WDB	プライム	16:00
	7951	ヤマハ	プライム	15:30		2480	シスロケ	スタンダード	15:30
	7956	ピジョン	プライム	15:30		2613	Jオイル	プライム	15:30
	7974	任天堂	プライム	15:30		2666	オートウェーブ	スタンダード	
	7979	松風	プライム	15:00		2681	セカンドリテイ	プライム	15:30
	7980	重松製	スタンダード	15:00		2700	木徳神糧	スタンダード	15:30
	7991	マミヤOP	スタンダード			2705	大戸屋HD	スタンダード	15:00
	8020	兼松	プライム	14:00		2767	円谷フィール	プライム	15:30
	8056	BIPROGY	プライム	15:30		2790	ナフコ	スタンダード	15:30
	8065	佐藤商	プライム	13:00		2814	佐藤食	スタンダード	16:00
	8098	稲畑産	プライム	14:00		2815	アリアケ	プライム	10:00
	8111	Gウイン	プライム	10:00		2819	エバラ食品	スタンダード	15:45
	8150	三信電	プライム	15:30		2903	シノブフース	スタンダード	14:00
	8158	ソーダニッカ	プライム	14:00		2911	旭松食	スタンダード	15:00
	8282	ケーズHD	プライム	11:00		3024	クリエイト	スタンダード	15:00
	8584	ジャックス	プライム	15:00		3036	アルコニックス	プライム	12:30
	9001	東武	プライム	15:30		3221	ヨシックスHD	プライム	15:00
	9003	相鉄HD	プライム	14:00		3286	トラストHD	スタンダード	15:00
	9021	JR西日本	プライム	15:30		3288	オープンハウス	プライム	15:30
	9057	遠州トラック	スタンダード	13:00		3289	東急不HD	プライム	15:30
	9101	郵船	プライム	12:00		3302	帝繊維	プライム	15:00
	9119	飯野海	プライム	14:00		3315	日本コークス	プライム	14:00
	9303	住友倉	プライム	13:00		3386	コスモ・バイオ	スタンダード	15:30
	9312	ケイヒン	スタンダード	14:00		3393	スターティアHD	プライム	15:30
	9324	安田倉庫	プライム	15:00		3563	F&LC	プライム	11:30
	9404	日テレHD	プライム	15:30		3623	ビリングシス	グロース	15:00
	9413	テレ東HD	プライム	16:00		3634	ソケッツ	スタンダード	
	9424	日本通信	プライム			3663	セルシス	プライム	
	9514	EFｰON	スタンダード	15:40		3687	フィックスターズ	プライム	16:00
	9537	北陸ガス	スタンダード	15:30		3766	システムズD	スタンダード	
	9619	イチネンHD	プライム	15:30		3774	IIJ	プライム	12:00
	9639	三協フロン	スタンダード	15:00		3798	ULSｰG	スタンダード	15:30
	9722	藤田観	プライム	15:30		3834	朝日ネット	プライム	15:30
	9849	共同紙	スタンダード	15:30		3841	ジーダット	スタンダード	15:40
	9853	ルノアール	スタンダード	15:30		3842	ネクストジェン	スタンダード	16:00
	9902	日伝	プライム	13:00		3861	王子HD	プライム	13:00
	9913	日邦産	スタンダード	15:00		3863	日本紙	プライム	15:00
	9991	ジェコス	プライム	15:00		3910	エムケイシステム	スタンダード	15:30
11月6日	1301	極洋	プライム	11:00		3926	オープンドア	スタンダード	15:30
	1332	ニッスイ	プライム	12:00		3945	スパバック	スタンダード	16:00
	1375	ユキグニ	プライム	15:30		3998	すららNT	グロース	15:30
	1382	ホーブ	スタンダード	15:30		4028	石原産	プライム	13:00
	1429	日本アクア	プライム	15:30		4169	エネチェンジ	グロース	12:00
	1450	TANAKEN	スタンダード	15:00		416A	富士ユナイト	スタンダード	16:00
	1515	日鉄鉱	プライム	15:00		4224	ロンシルエ	スタンダード	14:00
	1717	明豊ファシリ	スタンダード	16:00		4263	サスメド	グロース	15:30
	1721	コムシスHD	プライム	15:00		4320	CEHD	スタンダード	15:30
	1826	佐田建	スタンダード	15:00		4341	西菱電機	スタンダード	14:00
	1899	福田組	プライム			4512	ワカモト	スタンダード	15:00
	1905	テノックス	スタンダード	13:00		4563	アンジェス	グロース	16:00
	1951	エクシオG	プライム	15:00		4572	カルナバイオ	グロース	
	1966	高田工	スタンダード	15:00		4588	オンコリス	グロース	15:30
	2001	ニップン	プライム	16:00		4611	大日塗	プライム	14:00
	2139	中広	スタンダード	16:00		4613	関西ペ	プライム	15:00
	2154	オープンUP	プライム	15:30		4615	神東塗	スタンダード	15:00
	2206	グリコ	プライム	15:30		4623	アサヒペン	スタンダード	15:30
	2209	井村屋G	プライム	15:00		4626	太陽HD	プライム	12:00
	2229	カルビー	プライム	12:00		4633	サカタインクス	プライム	15:00
	2349	エヌアイデイ	スタンダード	15:30		4635	東インキ	スタンダード	
	2376	サイネックス	スタンダード	15:40		4665	ダスキン	プライム	15:30

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

※なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻	日付	コード	銘柄	上場部名	時刻
11月6日	4671	ファルコHD	スタンダード	16:00		6678	テクノメディカ	スタンダード	
	4676	フジHD	プライム	15:00		6730	アクセル	スタンダード	15:30
	4686	ジャストシステ	プライム	16:00		6743	大同信	スタンダード	16:00
	4719	アルファシステム	プライム	16:00		6775	TBグループ	スタンダード	16:00
	4769	IC	スタンダード	15:40		6777	santecHD	スタンダード	15:40
	4783	NCD	スタンダード	15:30		6787	メイコー	プライム	15:30
	4809	パラカ	プライム			6803	ティアック	スタンダード	12:00
	4848	フルキャストHD	プライム			6836	プラットホーム	スタンダード	16:00
	4912	ライオン	プライム	15:00		6875	メガチップス	プライム	15:30
	4970	東洋合成	スタンダード			6882	三社電機	スタンダード	15:30
	5015	BPカストロール	スタンダード			6907	ジオマテック	スタンダード	16:00
	5186	ニッタ	プライム	15:00		6919	ケル	スタンダード	13:00
	5268	旭コンクリ	スタンダード	13:00		6925	ウシオ電	プライム	16:00
	5282	ジオスター	スタンダード	15:30		6927	ヘリオステクノH	スタンダード	16:00
	5283	高見澤	スタンダード	15:30		6929	日セラミ	プライム	15:10
	5284	ヤマウHD	スタンダード	16:00		6964	サンコー	スタンダード	16:00
	5287	イトーヨーギョ	スタンダード	15:00		6996	ニチコン	プライム	15:30
	5380	新東	スタンダード	15:00		7011	三菱重	プライム	13:00
	5411	JFE	プライム	14:00		7079	WDBココ	グロース	16:00
	5446	北越メタル	スタンダード	15:00		7134	アップガレー	スタンダード	15:30
	5461	中部鋼	プライム	15:00		7184	富山第一	プライム	15:00
	5563	新日電工	プライム	13:00		7192	モーゲージS	スタンダード	14:00
	5602	栗本鉄	プライム	13:00		7202	いすゞ	プライム	14:00
	5607	中可鍛	名証			7211	三菱自	プライム	16:00
	5729	日精鉱	スタンダード	13:00		7228	デイトナ	スタンダード	12:00
	5742	NIC	スタンダード			7231	トピー	プライム	13:00
	5816	オーナンバ	スタンダード	15:30		7272	ヤマハ発	プライム	13:00
	5820	ニッ星	スタンダード	16:00		7399	ナンシン	スタンダード	16:00
	5830	いよぎん	プライム	13:00		7509	アイエーG	スタンダード	15:45
	5901	洋缶HD	プライム	16:00		7595	アルゴグラフ	プライム	15:45
	5902	ホッカン	プライム	16:00		7606	TABAYAHD	プライム	12:30
	5928	アルメタックス	スタンダード	16:00		7613	シークス	プライム	15:30
	5956	トーソー	スタンダード	15:30		7621	うかい	スタンダード	15:00
	5958	三洋工	スタンダード	11:00		7701	島津製	プライム	15:30
	603A	アイグリッド	グロース	15:30		7702	JMS	スタンダード	15:00
	6062	チャームケア	プライム			7721	東京計器	プライム	16:00
	6088	シグマクシスH	プライム	16:00		7745	A&Dホロン HD	プライム	15:30
	6138	ダイジェト	スタンダード	13:00		7752	リコー	プライム	15:30
	6140	旭ダイヤ	プライム	15:00		7760	IMV	スタンダード	
	6143	ソディック	プライム	15:00		7792	コラントッテ	グロース	15:30
	6248	横田製作	スタンダード	15:30		7826	フルヤ金属	プライム	15:30
	6257	藤商事	スタンダード	15:30		7840	フラベッドH	プライム	16:00
	6277	ホソカワミクロ	プライム	15:30		7885	タカノ	スタンダード	15:00
	6282	オイレス工	プライム	15:00		7937	ツツミ	スタンダード	14:00
	6307	サンセイ	スタンダード	15:30		7955	クリナップ	プライム	15:30
	6315	TOWA	プライム	15:30		7963	興研	スタンダード	15:00
	6327	北川精機	スタンダード	15:00		7987	ナカバヤシ	スタンダード	15:30
	6332	月島HD	プライム	14:00		7994	オカムラ	プライム	15:30
	6364	AIRMAN	プライム	13:00		8012	長瀬産	プライム	15:30
	6378	木村化	スタンダード	16:00		8018	三共興	スタンダード	11:00
	6445	ジャノメ	プライム	13:00		8045	横丸魚	スタンダード	15:30
	6460	セガサミーHD	プライム	11:30		8059	第一実	プライム	14:00
	6479	ミネベアミツミ	プライム	15:30		8075	神鋼商	プライム	12:00
	6492	岡野バル	スタンダード	15:30		8078	阪和興	プライム	13:00
	6507	シンフォニア	プライム	13:00		8091	ニチモウ	プライム	16:00
	6647	森尾電	スタンダード	14:00		8113	ユニチャーム	プライム	16:00
	6652	IDEC	プライム	15:30		8136	サンリオ	プライム	15:30
	6655	洋電機	名証			8139	ナガホリ	スタンダード	15:30
	6658	シライ電子	スタンダード	11:00		8173	Joshin	プライム	12:00
	6674	GSユアサ	プライム	15:00		8214	AOKIHD	プライム	15:30

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

※なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻
11月6日	8230	はせがわ	スタンダード	15:00
	8336	武蔵銀	プライム	12:00
	8346	東邦銀	プライム	12:00
	8359	八十二長	プライム	15:30
	8365	富山銀	スタンダード	14:00
	8393	宮崎銀	プライム	12:00
	8395	佐賀銀	プライム	15:00
	8410	セブン銀行	プライム	15:30
	8424	芙蓉リース	プライム	14:00
	8425	ミズホリース	プライム	15:30
	8550	栃木銀	プライム	15:00
	8572	アコム	スタンダード	15:30
	8596	九州リース	スタンダード	14:00
	8742	小林洋行	スタンダード	15:45
	8747	豊トラスティ	スタンダード	15:00
	8772	アサックス	スタンダード	15:30
	8789	フィンテック	スタンダード	
	8801	三井不	プライム	15:30
	8935	FJネクストHD	プライム	11:00
	9009	京成	プライム	15:30
	9031	西鉄	プライム	16:00
	9034	南総通運	スタンダード	15:00
	9063	岡県運	スタンダード	15:00
	9072	ニッコンHD	プライム	14:00
	9087	タカセ	スタンダード	15:45
	9130	共栄タ	スタンダード	16:00
	9143	SGHD	プライム	15:30
	9171	栗林船	スタンダード	14:00
	9273	コーア商事H	プライム	13:00
	9302	三井倉HD	プライム	15:30
	9305	ヤマタネ	プライム	16:00
	9339	コーチ・エィ	スタンダード	
	9355	リンコー	スタンダード	16:00
	9359	伊勢海	名証	
	9376	ユーラシア	スタンダード	16:00
	9401	TBSHD	プライム	16:00
	9421	エヌジェイHD	スタンダード	16:00
	9433	KDDI	プライム	15:45
	9441	ベルパーク	スタンダード	
	9475	昭文社HD	スタンダード	15:30
	9535	広島ガス	プライム	15:00
	9562	ビジネスコー	グロース	15:00
	9706	空港ビル	プライム	16:00
	9757	船総研HD	プライム	15:30
	9763	丸建リース	スタンダード	13:00
	9788	ナック	プライム	15:00
	9816	ストライダース	スタンダード	
	9831	ヤマダHD	プライム	11:00
	9857	英和	スタンダード	15:00
	9867	ソレキア	スタンダード	15:00

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

格上げ・買い推奨

※下記のレーティングや目標株価は証券各社が発表したもののうち、フィスコが把握したものを集計しています。

日付	証券会社	コード	社名	レーティング	目標株価（円）
10月26日	岡三	6501	日立	強気新規	6800
10月27日	SMBC日興	6754	アンリツ	2→1格上げ	4600→3800
10月28日	JPモルガン	6383	ダイフク	OVERWEIGHT新規	7200
		6407	CKD	OVERWEIGHT新規	7700
		6481	THK	OVERWEIGHT新規	9400
		6861	キーエンス	OVERWEIGHT新規	96800
	SMBC日興	7581	サイゼリヤ	2→1格上げ	5400→5900
		7649	スギHD	2→1格上げ	1650→1550
	ゴールドマン	4203	住友ベーク	買い新規	11760
10月29日	大和	7936	アシックス	2→1格上げ	4500→5500
	東海東京	1801	大成建	OUTPERFORM新規	14200
10月30日	ゴールドマン	290A	Syns	買い新規	2000
	岡三	4911	資生堂	強気新規	4400

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

格下げ・売り推奨

※下記のレーティングや目標株価は証券各社が発表したもののうち、フィスコが把握したものを集計しています。

日付	証券会社	コード	社名	レーティング	目標株価（円）
10月26日	SMBC日興	8136	サンリオ	1→2格下げ	1320→1500
		290A	Syns	1→2格下げ	1600→1200
10月27日	SMBC日興	7721	東京計器	1→2格下げ	8000→6000
10月28日	SMBC日興	3349	コスモス薬品	1→2格下げ	7700→7200
	大和	9706	日空ビル	2→3格下げ	5400→5880
	野村	7751	キヤノン	BUY→NEUTRAL格下げ	5300→5000
10月29日	モルガン	593A	ティアフォー	OVERWEIGHT→EQUALWEIGHT格下げ	1350→2000
	東海東京	3091	ブロンコB	OUTPERFORM→NEUTRAL格下げ	2800→3100
10月30日	SMBC日興	7564	ワークマン	1→2格下げ	8300→5400
	岡三	3222	USMH	中立→ 弱気格下げ	850→630

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

※　データは直近の新規上場銘柄の結果とスケジュールを全て掲載しています。
証券会社によって取り扱いが異なりますので、お取引の際は各証券会社にご確認ください。

銘柄名	コード	市場	上場日	仮条件（円/発表日）	公募株数（株）	売出株数（株）	公募価格（円/発表日）	初値（円）	主幹事	10/30終値（円）
トグルホールディングス	652A	グロース	10/30	4,030～4,040	2,244,600	1,630,300	4,040	3,760	SMBC日興、UBS、SBI	3,640
事業内容：	独自のAI技術を活用した再開発可能土地の仕入販売およびAIシステム/AIエージェント開発等									
MabGenesis	653A	グロース	11/2	800～830	940,700	1,345,200	830	－	東海東京	－
事業内容：	ペット用抗体医薬品の研究開発									
Allganize Holdings	656A	グロース	11/4	1,250～1,260	658,100	3,496,800	1,260	－	SMBC日興、大和	－
事業内容：	企業の業務自動化を支援するAIエージェント・生成AIプラットフォームの開発およびSaaS・オンプレミス形態での提供									
LTV-X	655A	名証ネクスト	11/5	550～570	367,000	438,000	570	－	Jトラストグローバル	－
事業内容：	各業界の事業者向けに顧客管理・マーケティングオートメーション・オペレーション業務を支援するクラウドシステム「LTV-Labシリーズ」「ふるさとLab」「 LTV-Zaiko」等を開発・提供									
estie	658A	グロース	11/6	1,070～1,100	50,000	6,492,100	1,100	－	SMBC日興、みずほ	－
事業内容：	不動産プラットフォーム事業（独自構築した商業用不動産データベースを活用したVertical Data ソリューション、エンタープライズ実装及び専門情報サービスの提供）									
RECEPTIONIST	660A	グロース	11/10	820～850	50,000	1,636,100	850	－	SBI	－
事業内容：	クラウド受付システム「RECEPTIONIST」の提供等を行うクラウドサービス事業									
HiJoJo Partners	657A	グロース	11/20	11/4	5,405,400	3,603,600	11/12	－	みずほ、SMBC日興	－
事業内容：	スタートアップ企業投資及び組入れファンド販売等									
TOKIUM	664A	グロース	11/25	11/6	617,300	1,100,100	11/16	－	SMBC日興	－
事業内容：	経理領域における業務プロセスを丸ごと受託し、業務成果を納品する経理AIエージェント「TOKIUM」を顧客に提供									
ジャパンホームシールド	667A	スタンダード	11/30	11/11	0	4,170,900	11/18	－	野村	－
事業内容：	地盤調査及び関連事業、地盤工事及び関連事業、建物検査及び関連事業									
M&Aロイヤルアドバイザリー	669A	グロース	12/3	11/16	50,000	8,684,000	11/24	－	野村	－
事業内容：	M&A仲介事業									

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

雲上抜け銘柄(プライム)

コード	銘柄	終値（円）	先行スパンA（円）	先行スパンB（円）	コード	銘柄	終値（円）	先行スパンA（円）	先行スパンB（円）
1433	ベステラ	1190	1176.75	1184	1773	YTL	82	77.25	79
2734	サーラ	1175	1101.5	1056.5	3002	グンゼ	4110	4082.5	3670.5
3048	ビックカメラ	1725	1716.5	1681	3407	旭化成	1605	1579.5	1421
4023	クレハ	4195	4156.25	3764.5	4183	三井化学	2086	2021.25	1996.5
4331	T＆Gニーズ	843	733	827.5	4536	参天薬	1790	1736.75	1675
5105	TOYO	4029	3988	3778.5	5423	東製鉄	1742	1705.75	1650.5
5602	栗本鉄	1657	1642.25	1470	5943	ノーリツ	2310	2284.25	2190
7733	オリンパス	1742	1600	1735.5	8088	岩谷産	1925	1891.75	1786
8132	シナネンHD	7400	7292.5	7075	9045	京阪HD	3349	3346.5	3281.5
9119	飯野海	1662	1654.25	1443	9202	ANA	3043	2907	3000.5
9551	メタウォーター	3700	3618.75	3130.5	9987	スズケン	2994	2954	2928

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

雲下抜け銘柄(プライム)

コード	銘柄	終値（円）	先行スパンA（円）	先行スパンB（円）	コード	銘柄	終値（円）	先行スパンA（円）	先行スパンB（円）
1780	ヤマウラ	1424	1558	1446	1815	鉄建	2100	2366.75	2102.5
1930	北陸電工	1452	1569.5	1484.5	1938	日リーテック	2421	2651.25	2425.5
1942	関電工	4598	6080	4909	1944	きんでん	5894	7494.5	6100.5
1946	トーエネック	1795	2153	1802.5	1950	日本電設	3720	4566.25	3847
2211	不二家	2453	2478.75	2501.5	2288	丸大食	2055	2259	2109.5
2317	システナ	422	447	465	2326	デジアーツ	5440	5835	6545
2359	コア	2003	2156.25	2039	2462	ライク	1457	1571.5	1500
2910	ロックフィルド	1341	1348	1416	2929	ファーマF	635	671.75	812
2933	紀文食品	1051	1063	1122.5	2935	ピックルスHD	1128	1203.25	1148
2982	ADワークスグループ	380	433.25	390	3031	ラクーンHD	623	655	726
3445	RSテクノ	4875	5287.5	4903.5	3660	アイスタイル	447	457.25	543.5
3679	じげん	436	446	490.5	3769	GMOPG	8563	8604.5	8801.5
3916	DIT	1059	1059.75	1154	3922	PRTIMES	2230	2333.25	2655.5
4063	信越化	5966	6487	6081.5	4290	PI	663	689.25	674
4403	日油	2799	3073	2801	4662	フォーカス	1714	1729	1726.5
4681	リゾートトラ	1774	1865.75	1781	4826	CIJ	516	528	531
4971	メック	5870	7957.5	6477.5	5451	ヨドコウ	1344	1454	1355
5482	愛知鋼	2338	3009	2667.5	5911	横河ブHD	2770	3012.75	2884.5
6050	EG	1588	1663.5	1931	6183	ベルシス24	1344	1447	1388.5
6289	技研製作所	1954	2045.75	1957.5	6345	アイチ	1310	1367.75	1368.5
6370	栗田工	5647	7638.5	6906	6436	アマノ	3581	3844.25	4069
6455	モリタHD	2504	2683	2513.5	6503	三菱電	4640	5551.25	4704.5
6571	キュービーネットHD	1241	1354.5	1262	6588	東芝テック	2892	2894.5	2917.5
6674	GSユアサ	4613	5483.5	4655.5	6702	富士通	3622	3652.5	3842
6823	リオン	3055	3197.5	3070	6986	双葉電子	620	693.5	644
7172	JIA	2037	2102.5	2063.5	7241	フタバ産	924	1024	941
7388	FPパートナー	2277	2300.75	2307	7508	Gセブンホールディングス	1341	1383.5	1370
7525	リックス	3400	3597.5	3414.5	7944	ローランド	3730	3987.5	3737.5
8174	日瓦斯	866	955.75	933	8473	SBI	2867	3176.75	2882
9021	JR西	3086	3093.25	3163.5	9332	NISSOHD	636	641.5	660.5
9622	スペース	1405	1540.75	1410.5	9715	トラコス	3675	3875	3687.5
9744	メイテックG	3195	3319.25	3372					

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

株式、債券、ファンド、上場ETF及び上場リートのご購入の際のご注意事項

当資料は、投資判断の参考となる情報提供のみを目的としており、個別の金融商品の投資勧誘を目的として作成または提供するものではありません。当資料は、作成者が信頼できると判断した情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性や完全性を、または、将来の経済・市況動向等を予測・保証するものではありません。また、当資料中の見解等は今後予告なく変更される場合がありますので、投資に係る最終決定はご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。金融商品等の手数料等及びリスクについては、当該商品等の上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書及びお客さま向け資料等に記載しておりますので、よくお読みください。

【お取引時の手数料について】(営業店でお取引の場合の手数料率、税込表示)

● 国内株式の売買取引には約定代金に対して最大1.155%の売買手数料(同手数料額が2,750円に満たない場合は2,750円)をいただきます。マルチネット取引で売買いただく場合には対面取引の基本手数料から20%割引(当該金額が2,200円に満たない場合には、一律2,200円)となります。又、外国株式の売買取引には売買金額(現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合は加え、売りの場合は差し引いた金額)に対して最大0.88%の委託手数料(同手数料額が2,750円に満たない場合は2,750円)をいただきます。
● 非上場債券(国債、地方債、政府保証債、社債等)を当社が相手方となり、お買付けいただく場合には、購入対価のみお支払いいただきます。
● ファンドのご購入時や運用期間中には以下の費用がかかります。<直接費用>購入手数料(スイッチング手数料を含む)上限3.85%、換金手数料上限1.10%、信託財産留保額上限0.50%が必要となります。マルチネット取引の場合は購入手数料(スイッチング手数料を含む)、換金手数料について対面取引手数料の20%割引となります。
<間接費用>運用管理費用(信託報酬)上限2.50%、(注)その他の費用・手数料(監査費用、有価証券等の売買にかかる手数料、資産を外国で保管する場合の費用、信託事務に要する諸費用等)をご負担頂きます。(注)その他費用・手数料は、運用状況等により変動する為、料率の上限等を示すことができません。
● 外国株式、外国債券、外国投資信託を売買取引する際の円貨と外貨の交換レートには、約定代金に応じて当社が決定する為替スプレッドがあります。

【リスクについて】

●<株式、上場ETF、債券のリスク>株式や上場ETFの売買取引については、株価の変動により投資元本を割り込むことがあります。債券は金利水準の変動等により価格が上下し、損失が生じるおそれがあります。外国株式、外国債券及び外貨建て資産に投資する上場ETFは、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により投資元本を割り込むことがあります。
● <為替リスク>外貨建て商品の場合、外貨建てでは投資元本を割り込んでいない場合でも、為替変動あるいは外貨交換の際の為替スプレッドにより、円換算ベースで投資元本を割り込み損失を被る場合があります。
● <上場リートのリスク>リートは、不動産などで運用を行う上場投資法人です。リート市場価格については、金融経済動向、不動産市況、災害(地震、火災等)等の影響を受け変動し損失が生じるおそれがあります。分配金は不動産などからの収入に応じ変動します。金融商品取引所が定める基準に抵触し上場廃止になった場合には、取引が著しく困難になる可能性があります。
● <ファンドのリスク>ファンドは、主に国内外の株式、債券、不動産投資信託証券など値動きのある有価証券等(外貨建て資産には為替リスクもあります)に投資しますので基準価額は大きく変動します。従って、投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。また、「毎月分配型」及び「通貨選択型」ファンドの“収益分配金に関する留意事項”及び“通貨選択型投資信託の収益イメージ”は、必ずご確認して頂きたい重要事項となっておりますので、投資信託説明書(交付目論見書)をよくお読みください。

ひろぎん証券

商号等　ひろぎん証券株式会社
金融商品取引業者中国財務局長(金商)第20号
加入協会　日本証券業協会

(帳票J-10-002 企画部2024年4月改正)

本店営業部	〒730-0031 広島市中区紙屋町1-3-8	TEL:082-245-5000	三次支店	〒728-0012 三次市十日市中2-13-26	TEL:0824-62-3121
福山支店	〒720-0812 福山市霞町1-1-1	TEL:084-922-1321	可部支店	〒731-0221 広島市安佐北区可部3-20-21	TEL:082-815-2600
岡山営業所	〒700-0826 岡山市北区磨屋町1-3	TEL:086-222-1561	広島西支店	〒733-0841 広島市西区井口明神1-17-4	TEL:082-277-2700
府中支店	〒726-0004 府中市府川町335-1	TEL:0847-45-8500	東広島支店	〒739-0014 東広島市西条昭和町2-7	TEL:082-422-3621
尾道支店	〒722-0036 尾道市東御所町1-15	TEL:0848-23-8121	廿日市支店	〒738-0024 廿日市市新宮1-9-34	TEL:0829-31-6611
尾道支店今治営業所	〒794-0022 今治市室屋町1-1-13	TEL:0898-55-8280	岩国支店	〒740-0018 岩国市麻里布町2-7-7	TEL:0827-22-3161
			徳山支店	〒745-0034 周南市御幸通2-15	TEL:0834-31-5350
呉支店	〒737-0045 呉市本通3-5-4	TEL:0823-21-6401	徳山支店萩営業所	〒758-0027 萩市吉田町51-11	TEL:0838-25-2121
			宇部支店	〒755-0029 宇部市新天町2-3-3ボスティビル	TEL:0836-31-1105

ネットセンター(インターネット取引)　https://www.hirogin-sec.co.jp

資料作成:株式会社フィスコ
〒107-0062 東京都港区南青山五丁目13番3号